

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

- ① 学生の確保の見通し
 - ア 定員充足の見込み
 - イ 定員充足の根拠となる客観的データの概要
 - ウ 学生納付金の設定の考え方
- ② 学生確保に向けた具体的な取組状況

(2) 人材需要の動向等社会の要請

- ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）
- ② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

添付資料 目次

[インデックス番号]

【資料 1】

過去標準修業年限（4ヶ年）における入学定員超過率の状況 . . . ①

【資料 2】

京都地域における同一系列学部・学科の志願者等の状況 ②

【資料 3】

18歳人口の推移（近畿地区） ③

【資料 4】

ニーズアセスメント調査報告書 ④

【資料 5】

京都地区大学 入学初年度学費等年間納付額一覧 ⑤

【資料 6】

オープンキャンパス参加人数推移 ⑥

【資料 7】

資料請求者数推移 ⑦

【資料 8】

就職勤務地別卒業生数 ⑧

【資料 9】

教育・心理学科卒業生の教員就職状況 ⑨

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

今回の設置届出については、「設置の趣旨等を記載した書類」で説明した通り、新たに教育学部教育学科（入学定員 130 人／初等教育コース 50 名、幼児教育コース 80 名）を設置する計画をしている。

その元となる文学部教育・心理学科は、平成 27 年度から平成 29 年度の 3 ヶ年にわたり、志願者数、受験者数、入学者数ともに増加傾向にある。現行入学定員 100 名に対する直近 3 ヶ年の入学定員平均超過率は 1.17（平成 27 年度 1.19、平成 28 年度 1.23、平成 29 年度 1.09）で、過年度にわたり超過の状況が続いている【資料 1】。また今回、幼児教育コースにおいて保育士に関する要素を付加することから、新たな入学志望者層を取り込むことを目指している。こうした状況を踏まえ、新たに開設する教育学部の入学定員を 130 名に設定し、超過率を 1.00 に近づけたいと考えている。

本学が所在する京都地区の教育学・保育学系学部の過去 5 ヶ年の志願状況は、年度により増減が見られるものの増加傾向にあり、特に直近 3 ヶ年は年々増加している。【資料 2】。また長期的な志願者・入学者の確保については、今後 10 年間の 18 歳人口動向は本格的な再急減期に入り、大変厳しい状況下にあると認識しているが、次のとおり入学定員の確保は可能であると考えている。全国における 18 歳人口の減少率は、平成 29 年度から平成 39 年度までの期間に 89.1%と、およそ 11%減少となっている。また本学の志願者・入学者の約 8 割を占める近畿地区 2 府 4 県の 18 歳人口の減少率は、平成 29 年度から平成 39 年度までの期間に 87.8%と、およそ 12%減少となっている【資料 3】。今回実施した「ニーズアセスメント調査」の報告から、合格した場合、教育学部に入学したいと明確に入学意思を示した高校 2 年生（平成 30 年 3 月卒業予定者）が 270 名（入学定員 130 名・超過率 2.07）が存在することがあきらかとなっている。このことにより、今後 10 年で最も 18 歳人口が減少する平成 39 年度入学生で 11～12%の減少が見込まれたとしても、いずれもその入学定員については確保できると予測している。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

教育学部において学生確保の見通しを測定するため、定員充足の根拠となる客観的なデータを得ることを目的に「ニーズアセスメント調査」を実施した。その調査の実施にあたっては、株式会社紀伊國屋書店・株式会社高等教育総合研究所に委託して実施した【資料 4】。

本調査は、平成 28 年 11 月から 12 月にかけて実施し、平成 29 年度に大学入試を受験する可能性が最も高い高校 2 年生をアンケートの対象者とした。調査方法としては、アンケート実施の了承が得られた高等学校にアンケート用紙を送付し、各校の教職員から高校 2 年生（平成 30 年 3 月卒業予定者）にアンケート用紙（設問とともに、学科が養成する人物・学びの特色・卒業後の進路・関係学部を持った近隣大学との学費比較等を記載）を配布のうえで、10 分間程度の回答時間を設け、終了後、その場で回収し返送する形を取った。

実施にあたっては、本学への志願実績が継続してある全国の公立・私立の高等学校にアンケート実施の可否を尋ね、実施可能と返答があった 78 校について実施し、8,862 人からの協力を得ることができた。調査実施高等学校は、京都府（31 校・39.7%）、大阪府（18 校・23.1%）、滋賀県（13 校・16.7%）の 2 府 1 県で 79.5%を占めることとなった。また調査実施人数では、78.8%に達した。この数値は、本学平成 29 年度の京都府・大阪府・滋賀県の志願実績を合算した全国比率（志願者 68.8%・入学者 79.0%）であることを踏まえると、ほぼ実態に即した実施ができており、アンケート調査の母集団として妥当なものとする。なお、アンケートにかかる高校や高校生の時間を有効に活用するため、教育学部に関する設問に加え、同時期に設置を計画している社会学部に関する設問も 1 つのアンケート用紙に統合して実施をした。

有効回答 8,862 人のうち、高等学校卒業後に大学への進学を希望した者は 6,287 人（70.9%）。本学教育学部を受験したいと回答した者が 779 人（8.8%）、受験したいと回答した者のうち、合格した場合、「入学したい」と回答した者が 270 人（34.76%）であった。そして、「併願大学の結果によっては入学したい」と回答した者が 505 人（64.8%）、無回答が 4 人（0.5%）となった。

クロス集計の結果、教育学部を受験したいと回答し「入学したい」と回答した 270 名のうち、初等教育コースと回答した者が 136 名（34.0%）、幼児教育コースに入学したいと回答した者が 131 名（36.4%）、無回答 3 名（15.8%）となった。また社会学部と教育学部を受験したいと回答した 137 人について、初等教育コースに入学したいと回答した者が 37 名（27.0%）、幼児教育コースに入学したいと回答した者が 17 名（12.4%）となった。これらを合計すると、初等教育コースに「入学したい」と回答した者が合計 173 名、幼児教育コースに「入学したい」と回答した者が合計 148 名、あわせて 321 名が明確な入学意思を有していることが分析できた。また、「併願の結果によっては入学したい」と回答した 505 人のうち、初等教育コースに入学したいと回答した者が 264 人（66.0%）、幼児教育コースに入学したいと回答した者が 229 人（63.6%）であった。これら潜在的な入学希望者をも想定した場合、今回設置を計画している教育学部教育学科初等教育コース（入学定員 50 名）と同学部同学科幼児教育コース（入学定員 80 名）の入学者の確保は十分可能であると考えられる。

ウ 学生納付金の設定の考え方

本学の学生納付金の設定額については、平成 23 年に策定したグランドデザイン（平成 24 年度－平成 33 年度）の「管理運営方針」で示した「学長のリーダーシップのもと、教職協働体制を維持強化し、迅速な意思決定を行える体制を構築する。また、大学経営・運営における戦略策定やその遂行に力を発揮することができる教職員を育成するとともに、増収による財政基盤の安定を図る」を踏まえて、総合的な判断から設定している。

平成 14 年度以降、本学の学生納付金は据え置きのまま値上げをひかえてきた。今回の学部設置にあたっては、多様な教育を実現するために必要なスタッフの配置（人件費率）、新教室棟の建築を含めた本部キャンパスの総合整備計画にともなう施設費の改定を考慮し、近畿圏の競合大学の実情との比較を行い、学部ごとに帰属収支のバランスがとれるよう授業料の再設定をおこなった。

この度、新たに設置する社会学部現代社会学科およびコミュニティデザイン学科の学生納付金の設定は、1,290,000 円とした。【資料 5】にもあるとおり、近畿圏の競合校と比較してみても、大きくかけ離れている金額ではなく、教育学部の学生納付金の設定は妥当であると考えている。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

学生確保に向けた取組は、以下の 10 つの事業を軸に進めている。

1. 教育学部ホームページの開設
2. 教育学部の新設にあたってシンポジウムの開催
3. 大学・学部紹介パンフレット、コンセプトパンフレットの作成・配布
4. 大学説明会の開催、進学相談会への参加
5. 高校訪問、高校内模擬授業・ガイダンスの実施
6. オープンキャンパスの実施
7. ダイレクトメールの発送
8. 大学の公式 SNS を活用した情報発信
9. 高大連携・接続授業の実施
10. 大学進学に関わる諸雑誌への情報掲載

教育学部では、就任予定の教員が高等学校を訪問し進路指導部との関係を強化するとともに、高校での模擬授業やガイダンスを実施し、学びの具体的内容や卒業した場合の進路について、直接高校生に説明する機会を設けている。さらに、教育学部就任予定の教員がチームを編成して、毎月、高校生や保護者、地域の方々を対象としたリレー方式のイベントを計画し、より適切に学生を確保するための取組を行っている。これらの取

組により、2016年度のオープンキャンパスの参加者数は増加し、総来場者3,575名（昨年比104%増）の参加者を得ることができた【資料6】。そのことに加え、教育学部への進学・関心を示す文学部教育・心理学科の資料請求者数が4,718件（昨年比137.3%）となっており、本学の教育系学部・学科への関心が高まっていることの証左と言える【資料7】。

なお本年度は、開設準備の一環として2017年7月15日（土）に、教育学部の新設予定であることを踏まえたシンポジウム「Be Real “寄りそう教育” — 次世代へのメッセージ —」の開催を予定している。高校生・高等学校教諭や保護者、小学校・保育園・幼稚園関係者、さらに広く一般市民の方々を対象に社会的認知度を高め、より適切に学生を確保するための取組を行なっている。これは新しい教育学部が、どのような責務を持ち、どのような教育を展開し、何に貢献していくのかを、高校生・高等学校教諭や保護者、さらに広く一般市民の方々に伝え、社会的認知度を高めることを目的としたものである。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

教育学部教育学科では、「仏教精神に基づく宗教的情操を身につけ、インクルーシブ教育など社会的な要請に応えようとする責任感を持ち、慈しみの心をもって他者と接することができる」ということを教育の特色としている。

初等教育コースにおいては、小学校教員をとりまく社会的なニーズに対応するために、教育学、教科教育学、心理学など教育に関する理論と実践を総合的に身につけた人物養成を目的としている。本コースにおいて身につけた力を生かし、卒業後は、小学校教諭、公務員、教育にたずさわる一般企業などといった職種に就くことを想定している。

幼児教育コースでは、乳幼児の世界をとらえ深く関わるために、幼児教育と保育および子どもの福祉に関する理論と実践を総合的に身につけた人物養成を目的としている。本コースにおいて身につけた力を生かし、幼稚園、保育所、認定こども園、児童養護施設、乳児院、児童福祉施設、公務員、教育にたずさわる一般企業などの職種が主な卒業後の進路として想定している。

② 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

教育学部教育学科の設置について、学科で養成しようとする人物に関する社会的、地域的な人材需要の見通しを測定するために人材需要アンケートを実施した。その調査の実施にあたっては、株式会社紀伊國屋書店・株式会社高等教育総合研究所に委託して実施した【資料4】。

本調査は、平成28年11月から12月にかけて実施し、初等教育コースについては、これまで大谷大学文学部教育・心理学科の卒業生を受け入れた就職実績のある学校、企業・公的機関・団体など、教育・学習支援関連の事業所等669件を調査対象とした。また幼児教育コースについては、幼稚園・保育所・認定こども園、児童福祉施設など、計514件を調査対象とした。

調査方法としては、調査対象先の採用担当者宛てにアンケート調査用紙1部・依頼状・返信用封筒を送付し、協力可能な場合、回答済みのアンケート調査用紙を返送する形を取った。有効回答をいただいた教育・学習支援関連の事業所等（初等教育コース）の有効回答数は68件で、回答率は10.2%となった。園・施設などからは、203件の有効回答（回答率39.5%）を得ることができた。また調査の性質上、教育学部教育学科の概要（養成する人物・学びの特色・卒業後の進路・取得できる資格）を添付し、教育学科の2つのコースについて回答する形式を取った。

初等教育コースで回答をいただいた事業所等は、学習塾、教育・学習支援事業、教科書出版・販売をはじめ、幅広い業種を構成している。また幼児教育コースは、幼稚園・保育所・認定こども園、児童福祉施設・児童養護施設・乳児院など幅広い園・施設・学校から回答をいただいた。

なお、初等教育コースについて回答をいただいた教育・学習支援関連の事業所等の所在地（本社・主たる事業所等）は、本学が所在する京都府および近隣の大阪府をはじめとし、本社機能が集まる大都市圏（京都府、大阪府、東京都と神奈川県、および愛知県の1都2府2県）で64%以上を占めることとなった。また、幼児教育コースについて、回答を頂いた園・施設・学校の事業所等の所在地は、京都府および近隣の滋賀県と大阪府の2府1県で97%以上を占めた。本学卒業生の勤務地別比率を見た場合、京都府・滋賀県・大阪府で75%を占めていることとリンクしており、概ね実態に即したアンケートが実施できたと言える【資料8】。

【調査結果の概要】

≪初等教育コース≫

教育学部教育学科初等教育コースの卒業予定者の小学校教諭以外の就職に関する社会的なニーズは、今回の調査結果により以下のとおりとなった。

教育・学習支援関連の事務所等から得た有効回答 68 件について、本コースが養成する人物を将来採用したいかを問う設問に対しては、「採用したいと思う」が 17 件 (25.0%)、「採用を検討したいと思う」が 9 件 (13.2%)、これらをあわせると 26 件 (38.2%) となった。

また「採用したいと思う」「採用を検討したいと思う」と回答した 26 件に対して、現時点で採用可能と思われる人数を問う設問の回答をもとに、具体的な採用可能人数を算出した。その際、「未定」「無回答」は最低でも「1 人」が見込まれるが集計からは除外し、明確な記載のあった数値のみで算出した。結果は、採用意向を示した教育・学習支援関連の事業所等から 54 人との回答を得ることができた。

文学部教育・心理学科の卒業生の過去 3 年の教員就職状況【資料 9】を見ると、毎年約 40 名から 60 名の卒業生が学校現場に立っている。このことを踏まえると、学校現場以外の就職先についても十分に確保されていると考えられる。

≪幼児教育コース≫

教育学部教育学科幼児教育コースの卒業予定者の就職における社会的なニーズは、今回の調査結果により以下のとおりとなった。

幼稚園・保育所等の人事・採用担当者から得た有効回答 203 件について、「採用したいと思う」との回答が 88 件、「採用を検討したいと思う」との回答が 81 件となり、合わせると 169 件となった。幼児教育コースの入学定員は 80 人であり、採用意向を示した幼稚園・保育所等 (169 件) は、入学定員を大幅に上回っていると言える。

また「採用したいと思う」「採用を検討したいと思う」と回答した 169 件に対して、現時点で採用可能と思われる人数を問う設問の回答をもとに、具体的な採用可能人数を算出した。その際、「未定」「無回答」は最低でも「1 人」が見込まれるが集計からは除外し、明確な記載のあった数値のみで算出した。結果は、採用意向を示した幼稚園・保育所等から 263 名の採用可能人数を得ることができた。

同様の方法で、施設別の採用可能人数を算出した結果、幼稚園の採用可能人数が 90 名、保育所の採用可能人数が 115 名となった。これらの状況を総合すると、教育学部幼児教育コースの定員 80 名に対し、幼稚園のみ、保育所のみで採用数を上回っており、保育士としての就職先については十分に確保されていると考えられる。

標準修業年限（4ケ年）における平均入学定員超過率
（大谷大学）

2017年04月20日 現在

学部等名	項目	平成29年度 2017年度	平成28年度 2016年度	平成27年度 2015年度	平成26年度 2014年度	平均 入学定員超過率
文学部合計	入学定員超過率	(1.14)	(1.01)	(1.00)	(1.06)	(1.05)
	志願者数	3,343	3,053	2,068	2,290	
	受験者数	3,189	2,866	2,029	2,249	
	合格者数	2,243	2,171	1,647	1,655	
	入学者数	854	758	750	806	
	入学定員	745	745	745	760	
真宗学科	入学定員超過率	(0.74)	(0.75)	(0.95)	(1.01)	(0.86)
	志願者数	119	106	115	114	
	受験者数	114	103	114	114	
	合格者数	100	100	110	109	
	入学者数	52	53	67	71	
	入学定員	70	70	70	70	
仏教学科	入学定員超過率	(1.88)	(0.80)	(0.80)	(0.38)	(0.96)
	志願者数	174	95	66	38	
	受験者数	171	92	64	38	
	合格者数	171	89	63	37	
	入学者数	47	20	20	23	
	入学定員	25	25	25	60	
哲学科	入学定員超過率	(0.81)	(0.73)	(0.56)	(0.80)	(0.72)
	志願者数	162	167	87	127	
	受験者数	153	150	85	125	
	合格者数	144	137	81	109	
	入学者数	49	44	34	48	
	入学定員	60	60	60	60	
社会学科	入学定員超過率	(1.19)	(1.25)	(1.18)	(1.24)	(1.21)
	志願者数	624	627	406	390	
	受験者数	593	590	402	383	
	合格者数	365	392	299	285	
	入学者数	143	150	142	124	
	入学定員	120	120	120	100	
歴史学科	入学定員超過率	(1.23)	(1.22)	(1.31)	(1.26)	(1.25)
	志願者数	531	537	374	397	
	受験者数	501	505	365	391	
	合格者数	316	382	314	315	
	入学者数	123	122	131	126	
	入学定員	100	100	100	100	
文学科	入学定員超過率	(1.61)	(1.14)	(1.20)	(1.38)	(1.33)
	志願者数	442	420	254	284	
	受験者数	425	396	249	279	
	合格者数	282	281	204	191	
	入学者数	113	80	84	97	
	入学定員	70	70	70	70	
国際文化学科	入学定員超過率	(1.20)	(0.79)	(0.94)	(0.94)	(0.96)
	志願者数	378	312	210	225	
	受験者数	368	287	209	221	
	合格者数	337	267	198	208	
	入学者数	120	79	94	94	
	入学定員	100	100	100	100	
人文情報学科	入学定員超過率	(0.98)	(0.87)	(0.59)	(1.09)	(0.88)
	志願者数	288	247	140	198	
	受験者数	278	243	136	195	
	合格者数	249	224	124	177	
	入学者数	98	87	59	109	
	入学定員	100	100	100	100	
教育・心理学科	入学定員超過率	(1.09)	(1.23)	(1.19)	(1.14)	(1.16)
	志願者数	625	542	416	517	
	受験者数	586	500	405	503	
	合格者数	279	299	254	224	
	入学者数	109	123	119	114	
	入学定員	100	100	100	100	

* 志願者数・受験者数・合格者数は、第2志望による志願者数・受験者数・合格者数を含んだ数

* 文科省「学校基本調査」に準じて、第2志望による志願者数・受験者数・合格者数は、実際に入学した数を志願者数・受験者数

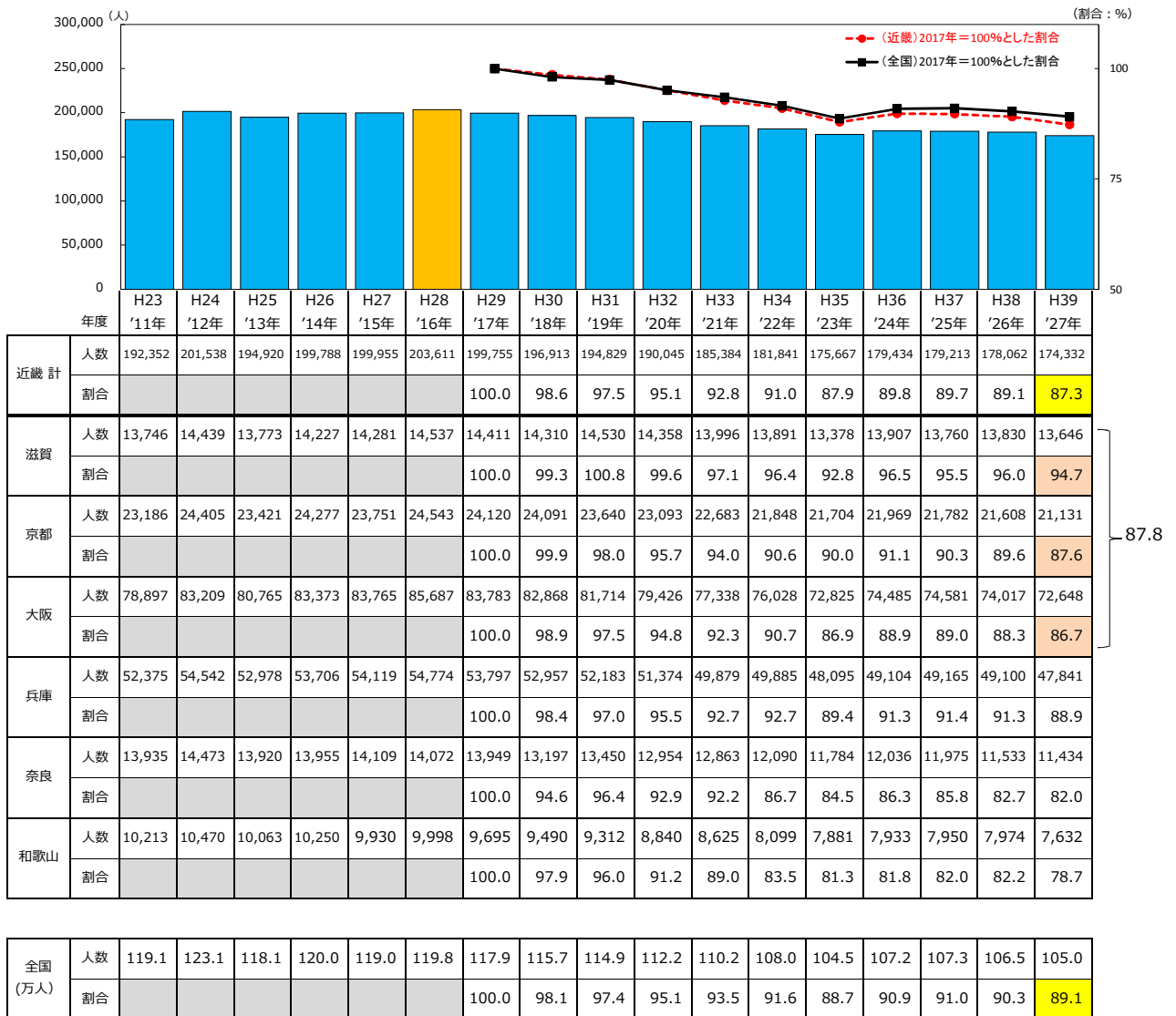
京都地区大学 教育学・保育学系学部 志願者推移

大学	学部	学科	志願者数				
			2013	2014	2015	2016	2017
立命館大学	産業社会学部	現代社会学科	9,535	10,554	9,153	11,071	12,087
佛教大学	教育学部	教育学科	4,481	4,035	4,255	4,047	3,376
京都橘大学	発達教育学部	児童教育学科	1,944	1,476	1,281	1,339	1,753
龍谷大学	文学部	哲学科(教育学)	1,527	1,717	1,442	1,876	1,653
京都女子大学	発達教育学部	教育学科	2,062	1,691	1,547	1,576	1,485
同志社女子大学	現代社会学部	現代こども学科	1,650	1,331	1,477	1,224	1,154
同志社大学	社会学部	教育文化学科	532	766	432	639	711
京都女子大学	発達教育学部	児童学科	1,027	862	752	1,025	700
大谷大学	文学部	教育・心理学科	509	514	416	542	625
京都文教大学	臨床心理学部	教育福祉心理学科	507	371	221	203	199
合 計			23,774	23,317	20,976	23,542	23,743

(株)リクルートマーケティングパートナーズ調べ (学部・学科別の総志願者数)

2017年度志願者数については、大学ホームページに公開されている数値を足しあげて計算したもの

■18歳人口の推移 (近畿)



●2016年度「学校基本調査」より算出
 ●18歳人口=3年前の中学校卒業生及び中等教育前期課程修了者数
 ※表内の「年度」に属する18歳とは、その年の4月現在の高校3年生(その年度に卒業を迎える高校3年生)を指す。

【資料提供】リクルート進学総研

大谷大学
～教育学部(仮称)～
設置に係るニーズアセスメント調査 報告書

平成 29 年 3 月 9 日

株式会社紀伊國屋書店
株式会社高等教育総合研究所

目次

1章 学生確保の見通し調査～教育学部(仮称)～

【設置構想についての高校生アンケート調査】結果

	1
1. 「設置構想についての高校生アンケート調査」概要	2
2. 「設置構想についての高校生アンケート調査」調査実施高等学校	3
3. 「設置構想についての高校生アンケート調査」集計結果	6
4. 「設置構想についての高校生アンケート調査」調査結果の分析	11
5. 「設置構想についての高校生アンケート調査」まとめ	20

2章 人材需要の見通し調査～教育学部(仮称)～

【設置構想についての教育・学習支援関連の事業所等向けアンケート調査】結果

	23
1. 「設置構想についての教育・学習支援関連の事業所等向けアンケート調査」概要	24
2. 「設置構想についての教育・学習支援関連の事業所等向けアンケート調査」集計結果	25
3. 「設置構想についての教育・学習支援関連の事業所等向けアンケート調査」調査結果の分析	29
4. 「設置構想についての教育・学習支援関連の事業所等向けアンケート調査」記述式設問に対する自由回答	35
5. 「設置構想についての向けアンケート調査」まとめ	37

3章 人材需要の見通し調査～教育学部(仮称)～

【設置構想についての幼稚園・保育所等向けアンケート調査】結果

	39
1. 「設置構想についての幼稚園・保育所等向けアンケート調査」概要	40
2. 「設置構想についての幼稚園・保育所等向けアンケート調査」集計結果	41
3. 「設置構想についての幼稚園・保育所等向けアンケート調査」調査結果の分析	51
4. 「設置構想についての幼稚園・保育所等向けアンケート調査」記述式設問に対する自由回答	63
5. 「設置構想についての幼稚園・保育所等向けアンケート調査」まとめ	68

添付資料

【添付①】「社会学部・教育学部 設置構想についての高校生アンケート調査」	72
【添付②】「教育学部 設置構想についての教育・学習支援関連の事業所等向けアンケート調査」	80
【添付③】「教育学部 設置構想についての幼稚園・保育所等向けアンケート調査」	86

1章

学生確保の見通し調査

～教育学部(仮称)～

【設置構想についての高校生アンケート調査】

結 果

1. 「設置構想についての高校生アンケート調査」概要

- ◆調査の目的：本調査は、大谷大学が平成30年4月に設置を予定する教育学部（仮称）の学生募集のニーズを、大学外の第三者機関により、高校生へのアンケートを用いて計ることを目的とする。
- ◆調査期間：平成28年11月～平成28年12月
- ◆調査方法：調査対象の高等学校にアンケート調査協力の依頼を行い、承諾が得られた各校に教育学部（仮称）の説明が入ったアンケート用紙を送付し実施した。各校の教職員から調査対象者（高等学校2年生）にアンケート用紙を配布のうえ、10分程度の回答時間を設け、その場で回収いただいた。
- ◆調査対象：平成28年度に高等学校第2学年に在籍している生徒。（高等学校2年生＝アンケート対象者のうち大学進学希望者は、平成30年3月に高等学校を卒業し、同年4月に大学に進学予定である。）
- ◆調査内容：13問の選択肢式の設問。
注．問7・問8は問6で平成30年4月に設置を予定する「社会学部(仮称)を受験したい」を選択した者に対する設問。
（主な質問項目）
 - ★回答者の基本情報、希望進路について
 - ★教育学部（仮称）への進学意欲について
- ◆有効回答件数：78 高等学校 / 8,862 件（1 高校あたり平均 113.6 件の実施）
依頼高等学校数：435 校（内の調査協力高等学校の割合：17.9%）
注．依頼高等学校数(435校)には中等教育学校が1校含まれているが、集計上は高等学校としている。実施高等学校数(78校)には中等教育学校(1校)は存在しない。
- ◆調査実施主体：株式会社紀伊國屋書店、株式会社高等教育総合研究所

2. 「設置構想についての高校生アンケート調査」調査実施高等学校

2-1 【調査対象高等学校の選定】

調査対象となる高等学校は435校としたが、その選定方針は次のとおりである。

- (1) 大谷大学志願者の多数を占める2府1県(京都府、大阪府、滋賀県)の高等学校(全日制課程)については、大学合格実績および系列大学の有無等を精査し調査対象とする。
- (2) 上記(1)以外に立地する高等学校(全日制課程)については、近年の志願者状況および地域性を考慮し調査対象とする。
- (3) 上記(1)(2)以外に大谷大学と同じく真宗大谷派学校連合会に加盟している高等学校(全日制課程)はすべて調査対象とする。

表1 立地別・設置者別の調査対象高等学校数(435校) [公立=281校、私立=154校]

立地	公立	私立	合計	立地	公立	私立	合計
北海道	1校	5校	6校	兵庫県	15校	5校	20校
富山県	2校		2校	奈良県	9校	4校	13校
石川県	3校	4校	7校	和歌山県	5校	1校	6校
福井県	2校	1校	3校	鳥取県	3校		3校
長野県		2校	2校	島根県	1校		1校
岐阜県	2校		2校	広島県		1校	1校
愛知県		5校	5校	香川県	1校		1校
三重県	1校	1校	2校	高知県	1校		1校
滋賀県	44校	9校	53校	福岡県		1校	1校
京都府	52校	30校	82校	大分県		1校	1校
大阪府	139校	84校	223校				

2-2 【調査実施高等学校の立地の分布】

アンケート調査を実施した高等学校と、調査実施人数の立地別の分布は以下の表2の通りである。

表2 調査実施高等学校数と調査実施人数の立地別の分布

立地	調査実施高等学校数		調査実施人数	
	校数	割合	人数	割合
北海道	3校	3.8%	530人	6.0%
石川県	1校	1.3%	52人	0.6%
福井県	1校	1.3%	74人	0.8%
長野県	2校	2.6%	203人	2.3%
愛知県	4校	5.1%	480人	5.4%
滋賀県	13校	16.7%	1,681人	19.0%
京都府	31校	39.7%	3,532人	39.9%
大阪府	18校	23.1%	1,767人	19.9%
兵庫県	1校	1.3%	107人	1.2%
奈良県	2校	2.6%	382人	4.3%
和歌山県	1校	1.3%	45人	0.5%
大分県	1校	1.3%	9人	0.1%
計	78校	100.0%	8,862人	100.0%

調査実施高等学校数は、2府1県(京都府、大阪府、滋賀県)を合わせると79.5%(39.7%+23.1%+16.7%)を占め、調査実施人数では、78.8%(39.9%+19.9%+19.0%)に達している。

大谷大学の平成28年度入学試験において、総志願者のうち出身高等学校が2府1県(京都府、大阪府、滋賀県)の志願者比率が69.3%(京都府:35.3%、大阪府:13.4%、滋賀県:20.6%)を占めていることを考慮すれば、ほぼ実態に即して実施できており、入口調査アンケートの母集団としては妥当なものである。

2-3 【調査実施高等学校の設置者別の割合】

アンケート調査を実施した高等学校の設置者別では、公立が33校(42.3%)、私立が45校(57.7%)となった。(表3参照)

表3 調査実施高等学校および実施人数の設置者別の割合

設置者	調査実施高等学校数		調査実施人数	
	校数	割合	人数	割合
公立	33校	42.3%	2,903人	32.8%
私立	45校	57.7%	5,959人	67.2%
計	78校	100.0%	8,862人	100.0%

2-4 【立地別の高等学校数および高等学校第2学年在籍生徒数に対する調査実施率】

アンケート調査実施総件数(78校・8,862人)について、立地別の高等学校数(全日制)および高等学校第2学年在籍生徒数(全日制)に対する調査実施率は表4の通りである。

所在地である京都府の調査実施率は、高等学校数で31.0%、高等学校第2学年生徒数で15.1%となった。全体(1道2府9県)の調査実施率は、高等学校数で5.5%、高等学校第2学年生徒数では2.7%であった。

表4 立地別の高等学校数および高等学校第2学年生徒数に対する調査実施比率

立地	調査実施 高等学校数	高等学校数	調査実施率	調査実施 人数	高等学校 第2学年生徒数	調査実施率
北海道	3校	274校	1.1%	530人	41,101人	1.3%
石川県	1校	51校	2.0%	52人	10,559人	0.5%
福井県	1校	33校	3.0%	74人	7,262人	1.0%
長野県	2校	97校	2.1%	203人	18,937人	1.1%
愛知県	4校	218校	1.8%	480人	64,992人	0.7%
滋賀県	13校	58校	22.4%	1,681人	12,750人	13.2%
京都府	31校	100校	31.0%	3,532人	23,389人	15.1%
大阪府	18校	253校	7.1%	1,767人	76,702人	2.3%
兵庫県	1校	194校	0.5%	107人	45,969人	0.2%
奈良県	2校	50校	4.0%	382人	12,081人	3.2%
和歌山県	1校	45校	2.2%	45人	8,862人	0.5%
大分県	1校	57校	1.8%	9人	10,231人	0.1%
計	78校	1,430校	5.5%	8,862人	332,835人	2.7%

注. 高等学校数および第2学年生徒数は全日制課程の数値

出所: 学校基本調査(平成28年度)

3. 「設置構想についての高校生アンケート調査」集計結果

問1【性別】性別をお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

選択肢		回答数	構成比
1	男性	4,256	48.0%
2	女性	4,427	50.0%
	無回答	179	2.0%
	計	8,862	100.0%

問2【居住地】居住地(寮生等の場合は出身地)をお答えください。(あてはまる番号を記入)

	選択肢	回答数	構成比
1	北海道	534	6.0%
2	青森県	7	0.1%
4	宮城県	1	0.0%
5	秋田県	1	0.0%
6	山形県	2	0.0%
7	福島県	1	0.0%
8	茨城県	2	0.0%
9	栃木県	2	0.0%
10	群馬県	7	0.1%
11	埼玉県	1	0.0%
12	千葉県	1	0.0%
13	東京都	10	0.1%
14	神奈川県	2	0.0%
15	新潟県	3	0.0%
16	富山県	1	0.0%
17	石川県	53	0.6%
18	福井県	74	0.8%
20	長野県	202	2.3%
21	岐阜県	10	0.1%
22	静岡県	3	0.0%
23	愛知県	476	5.4%
24	三重県	6	0.1%
25	滋賀県	1,769	20.0%
26	京都府	3,215	36.3%
27	大阪府	1,804	20.4%
28	兵庫県	226	2.6%
29	奈良県	380	4.3%
30	和歌山県	21	0.2%
31	鳥取県	2	0.0%
32	島根県	1	0.0%
33	岡山県	2	0.0%
34	広島県	3	0.0%
36	徳島県	3	0.0%
37	香川県	1	0.0%
38	愛媛県	1	0.0%
39	高知県	1	0.0%
40	福岡県	6	0.1%
41	佐賀県	1	0.0%
44	大分県	3	0.0%
47	沖縄県	9	0.1%
	無回答	15	0.2%
	計	8,862	100.0%

回答のあった選択肢のみ記載。

問3 【卒業後の進路】 高校卒業後の希望進路をお答えください。(あてはまるものすべてに○印)

選択肢		回答数	回答率
1	大学	6,287	70.9%
2	短期大学	1,059	11.9%
3	専門学校	2,094	23.6%
4	就職	959	10.8%
5	その他	180	2.0%

回答者数=8,862

問4 【志望分野】 興味・関心のある学問分野をお答えください。(あてはまるものすべてに○印)

選択肢		回答数	回答率
1	文学・歴史・心理	1,792	20.2%
2	経済・経営・商学	1,790	20.2%
3	法学・政治	580	6.5%
4	社会・社会福祉・観光	874	9.9%
5	外国語・国際関係	1,323	14.9%
6	教育・保育	1,811	20.4%
7	理学・工学・情報	1,008	11.4%
8	農・畜産・水産	304	3.4%
9	医学・歯学・薬学	520	5.9%
10	看護・医療技術	1,071	12.1%
11	栄養・家政	703	7.9%
12	スポーツ・健康科学	1,251	14.1%
13	芸術	845	9.5%
14	その他	693	7.8%

回答者数=8,862

問5 【希望進路】 将来、希望する進路をお答えください。(あてはまるものすべてに○印)

選択肢		回答数	回答率
1	一般企業	3,718	42.0%
2	公務員・団体職員	2,101	23.7%
3	教員	1,262	14.2%
4	資格をいかす職業	2,774	31.3%
5	研究・技術職	584	6.6%
6	起業・会社経営	463	5.2%
7	医療・福祉施設	1,292	14.6%
8	その他	682	7.7%

回答者数=8,862

問6 大谷大学が設置構想中の社会学部(仮称)または教育学部(仮称)を受験したいと思いますか。
(あてはまるもの1つに○印)

選択肢		回答数	構成比
1	社会学部(仮称)を受験したい	672	7.6%
2	教育学部(仮称)を受験したい	779	8.8%
3	社会学部(仮称)と教育学部(仮称)を受験したい	137	1.5%
4	社会学部(仮称)、教育学部(仮称)とも受験しない	7,147	80.6%
	無回答	127	1.4%
	計	8,862	100.0%

問7・問8は問6で「2.社会学部(仮称)を受験したい」を選択された672人が回答対象のため、本報告書では記載を省略する。

問9・問10は問6で「2.教育学部(仮称)を受験したい」を選択された方がお答えください。

問9 教育学部(仮称)を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。
(あてはまるもの1つに○印)

選択肢		回答数	構成比
1	入学したい	270	34.7%
2	併願大学の結果によっては入学したい	505	64.8%
	無回答	4	0.5%
	計	779	100.0%

問9-2 問9で2を選択された方は併願先をお答えください。(あてはまるものすべてに○印)

選択肢		回答数	回答率
1	他大学の教育学部	277	54.9%
2	他大学の教育学部 <small>以外</small> の学部	138	27.3%
3	大谷大学文学部	7	1.4%
4	その他	18	3.6%

回答者数=505

問10 教育学部(仮称)で「入学したい」「併願大学の結果によっては入学したい」と思っている学科-コースをお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

選択肢		回答数	構成比
1	教育学科-初等教育コース(仮称)	400	51.3%
2	教育学科-幼児教育コース(仮称)	360	46.2%
	無回答	19	2.4%
	計	779	100.0%

問11は問6で「3. 社会学部(仮称)と教育学部(仮称)を受験したい」を選択された方がお答えください。

問11 受験し合格した場合、入学したいと思う学部・学科をお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

	選択肢	回答数	構成比
1	社会学部 コミュニティデザイン学科(仮称)	23	16.8%
2	社会学部 現代社会学科(仮称)	33	24.1%
3	教育学部 教育学科-初等教育コース(仮称)	37	27.0%
4	教育学部 教育学科-幼児教育コース(仮称)	17	12.4%
5	他大学社会学系統の学部・学科	8	5.8%
6	他大学教育学系統の学部・学科	5	3.6%
7	その他	6	4.4%
	無回答	8	5.8%
	計	137	100.0%

以下の問12・問13は、問6で「4. 社会学部(仮称)、教育学部(仮称)とも受験しない」を選択された方がお答えください。

問12 「社会学部(仮称)、教育学部(仮称)とも受験しない」と回答された理由をお答えください。
(あてはまるものすべてに○印)

	選択肢	回答数	回答率
1	構想内容に魅力を感じないから	954	13.3%
2	興味・関心のある学問分野ではないから	3,883	54.3%
3	興味・関心のある学問分野であるが、他大学への進学を目指しているから	871	12.2%
4	自宅から通学が不便だから	639	8.9%
5	もっと詳しい情報を得た上で検討したいから	976	13.7%
6	学費が高いから	527	7.4%
7	大学進学はしないから(短期大学・専門学校への進学や就職を希望)	1,269	17.8%
8	その他	264	3.7%

回答者数=7,147

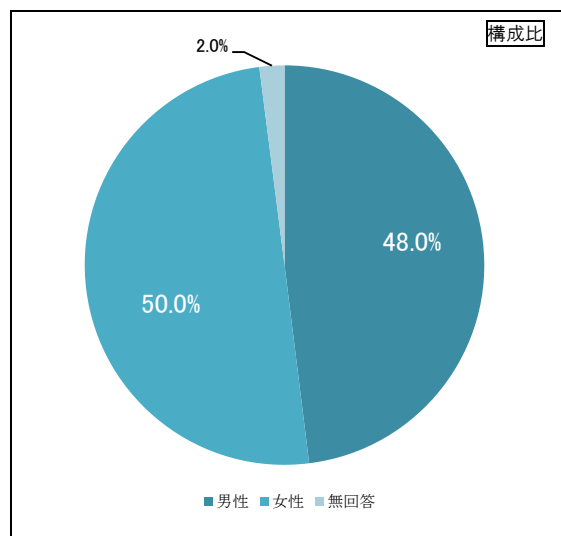
問13 あなたは現時点で大谷大学文学部を受験したいと思っていますか。(あてはまるもの1つに○印)

	選択肢	回答数	構成比
1	受験したい	142	2.0%
2	受験しない	6,768	94.7%
	無回答	237	3.3%
	計	7,147	100.0%

4. 「設置構想についての高校生アンケート調査」調査結果の分析

問1【性別】性別をお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

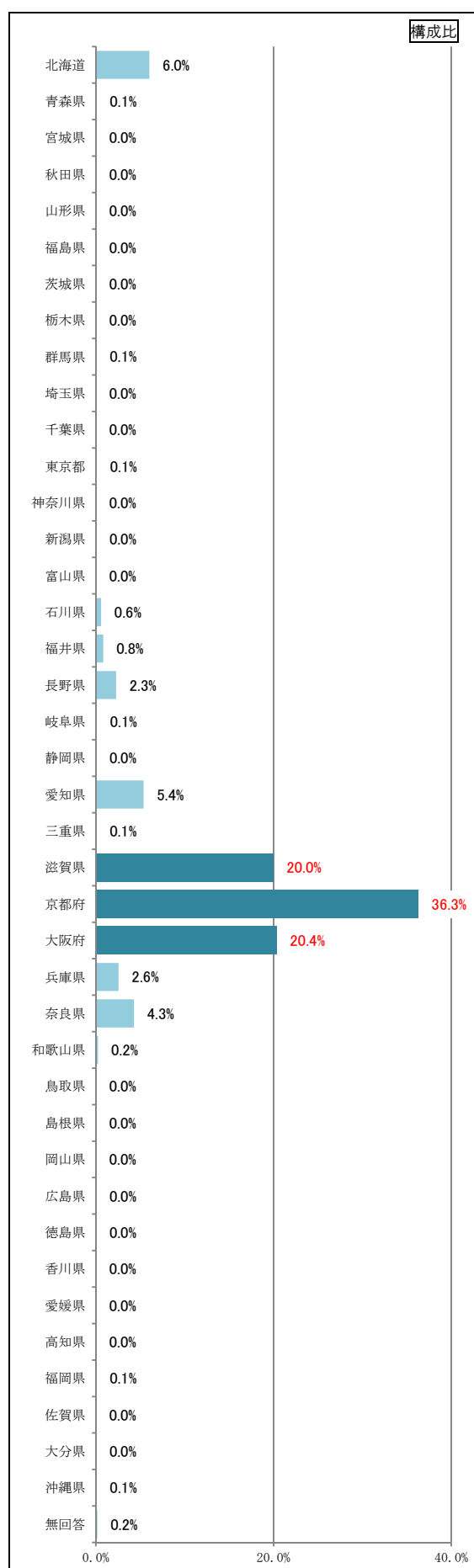
選択肢		回答数	構成比
1	男性	4,256	48.0%
2	女性	4,427	50.0%
	無回答	179	2.0%
	計	8,862	100.0%



上記問1において、回答者の性別を質問した。総回答者数8,862人のうち、48.0%が男性、50.0%が女性であり(無回答が2.0%)、構成比では女性が男性より2.0(50.0-48.0)ポイント高かった。

問2【居住地】居住地(寮生等の場合は出身地)をお答えください。(あてはまる番号を記入)

	選択肢	回答数	構成比
1	北海道	534	6.0%
2	青森県	7	0.1%
4	宮城県	1	0.0%
5	秋田県	1	0.0%
6	山形県	2	0.0%
7	福島県	1	0.0%
8	茨城県	2	0.0%
9	栃木県	2	0.0%
10	群馬県	7	0.1%
11	埼玉県	1	0.0%
12	千葉県	1	0.0%
13	東京都	10	0.1%
14	神奈川県	2	0.0%
15	新潟県	3	0.0%
16	富山県	1	0.0%
17	石川県	53	0.6%
18	福井県	74	0.8%
20	長野県	202	2.3%
21	岐阜県	10	0.1%
22	静岡県	3	0.0%
23	愛知県	476	5.4%
24	三重県	6	0.1%
25	滋賀県	1,769	20.0%
26	京都府	3,215	36.3%
27	大阪府	1,804	20.4%
28	兵庫県	226	2.6%
29	奈良県	380	4.3%
30	和歌山県	21	0.2%
31	鳥取県	2	0.0%
32	島根県	1	0.0%
33	岡山県	2	0.0%
34	広島県	3	0.0%
36	徳島県	3	0.0%
37	香川県	1	0.0%
38	愛媛県	1	0.0%
39	高知県	1	0.0%
40	福岡県	6	0.1%
41	佐賀県	1	0.0%
44	大分県	3	0.0%
47	沖縄県	9	0.1%
	無回答	15	0.2%
	計	8,862	100.0%



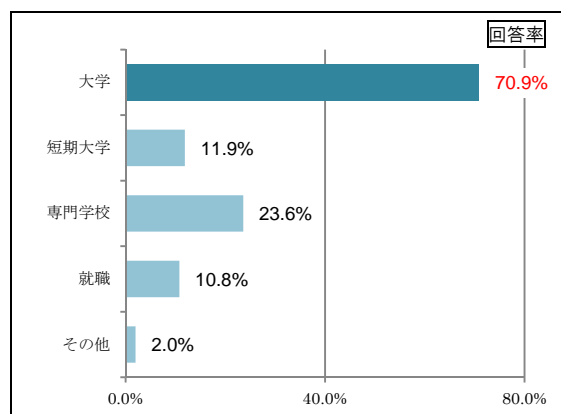
回答のあった選択肢のみ記載。

上記問2において、回答者の居住地を質問した。「26 京都府」が最も多く、36.3%(3,215人)となった。次いで、「27 大阪府」が20.4%(1,804人)、微差で「25 滋賀県」が20.0%(1,769人)と続いた。上位2府1県(京都府、大阪府、滋賀県)を合わせると全体の76.7%(6,788人)を占めた。

問3【卒業後の進路】 高校卒業後の希望進路をお答えください。(あてはまるものすべてに○印)

選択肢		回答数	回答率
1	大学	6,287	70.9%
2	短期大学	1,059	11.9%
3	専門学校	2,094	23.6%
4	就職	959	10.8%
5	その他	180	2.0%

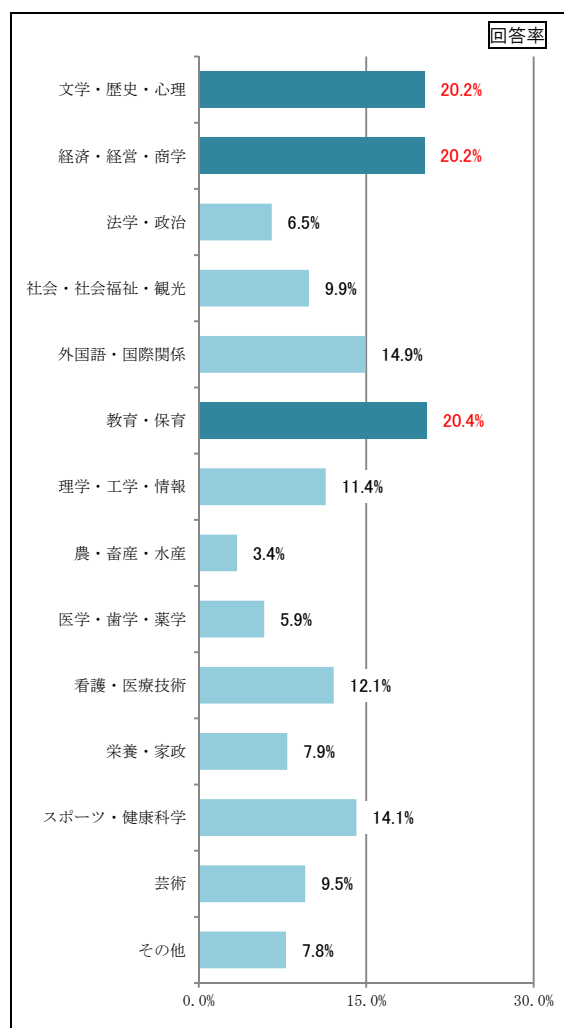
回答者数=8,862



上記問3において、回答者の高校卒業後の希望進路を質問した(複数回答可)。70.9%(6,287人)の「1 大学」が最も多く、23.6%(2,094人)の「3 専門学校」、11.9%(1,059人)の「2 短期大学」と続いた。

問4 【志望分野】興味・関心のある学問分野をお答えください。(あてはまるものすべてに○印)

	選択肢	回答数	回答率
1	<u>文学・歴史・心理</u>	<u>1,792</u>	<u>20.2%</u>
2	<u>経済・経営・商学</u>	<u>1,790</u>	<u>20.2%</u>
3	法学・政治	580	6.5%
4	社会・社会福祉・観光	874	9.9%
5	外国語・国際関係	1,323	14.9%
6	<u>教育・保育</u>	<u>1,811</u>	<u>20.4%</u>
7	理学・工学・情報	1,008	11.4%
8	農・畜産・水産	304	3.4%
9	医学・歯学・薬学	520	5.9%
10	看護・医療技術	1,071	12.1%
11	栄養・家政	703	7.9%
12	スポーツ・健康科学	1,251	14.1%
13	芸術	845	9.5%
14	その他	693	7.8%



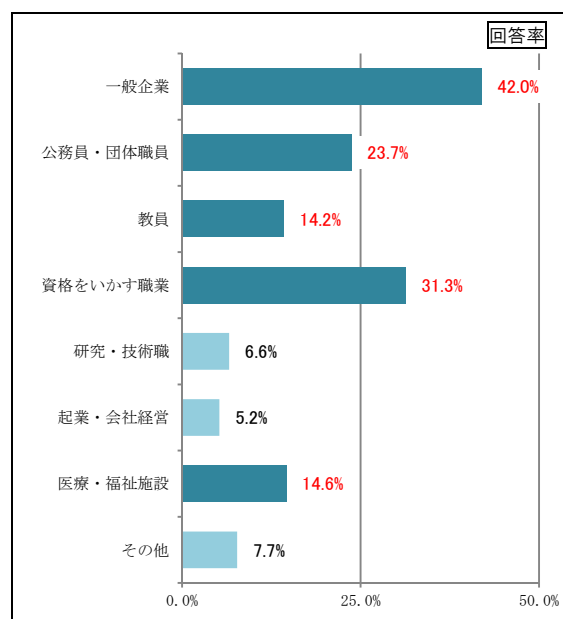
回答者数=8,862

上記問4において、回答者の興味・関心のある学問分野を質問した(複数回答可)。「6 教育・保育」が20.4%(1,811人)と最も多く、次いで「1 文学・歴史・心理」が20.2%(1,792人)、「2 経済・経営・商学」が20.2%(1,790人)と続いたが、上位3分野はほぼ同程度の回答率となった。

問5 【希望進路】将来、希望する進路をお答えください。(あてはまるものすべてに○印)

	選択肢	回答数	回答率
1	<u>一般企業</u>	<u>3,718</u>	<u>42.0%</u>
2	<u>公務員・団体職員</u>	<u>2,101</u>	<u>23.7%</u>
3	<u>教員</u>	<u>1,262</u>	<u>14.2%</u>
4	<u>資格をいかす職業</u>	<u>2,774</u>	<u>31.3%</u>
5	研究・技術職	584	6.6%
6	起業・会社経営	463	5.2%
7	<u>医療・福祉施設</u>	<u>1,292</u>	<u>14.6%</u>
8	その他	682	7.7%

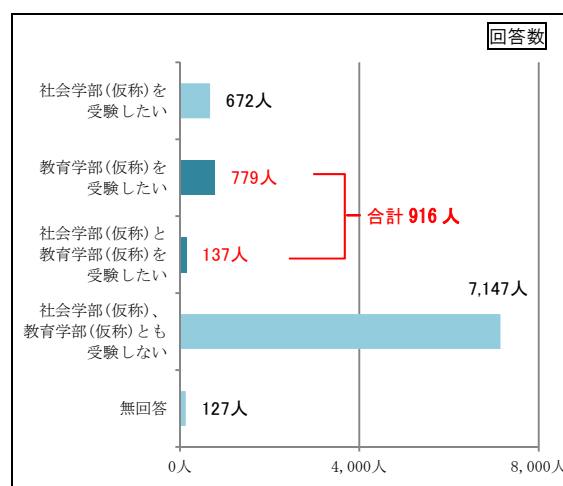
回答者数=8,862



上記問5において、回答者の将来希望する進路を質問した(複数回答可)。「1 一般企業」が42.0%(3,718人)と最も多かった。以下、10%超の回答は「4 資格をいかす職業」の31.3%(2,774人)、「2 公務員・団体職員」の23.7%(2,101人)、「7 医療・福祉施設」の14.6%(1,292人)、「3 教員」の14.2%(1,262人)であった。

問6 大谷大学が設置構想中の社会学部(仮称)または教育学部(仮称)を受験したいと思いますか。(あてはまるもの1つに○印)

	選択肢	回答数	構成比
1	社会学部(仮称)を受験したい	672	7.6%
2	<u>教育学部(仮称)を受験したい</u>	<u>779</u>	<u>8.8%</u>
3	<u>社会学部(仮称)と教育学部(仮称)を受験したい</u>	<u>137</u>	<u>1.5%</u>
4	社会学部(仮称)、教育学部(仮称)とも受験しない	7,147	80.6%
	無回答	127	1.4%
	計	8,862	100.0%



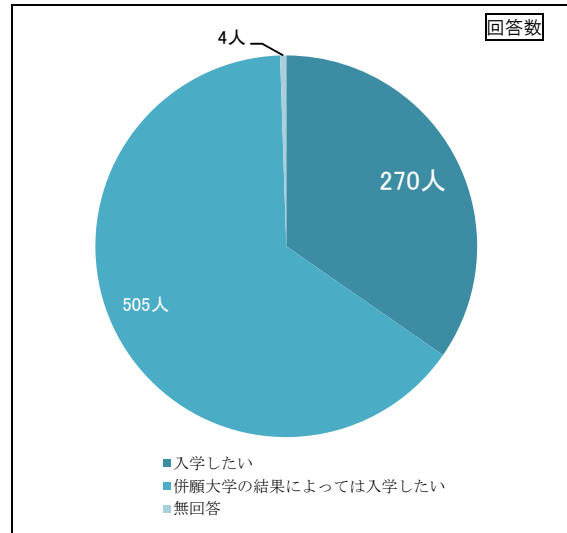
上記問6において、社会学部(仮称)と教育学部(仮称)に対する受験意志を質問した。「4 社会学部(仮称)、教育学部(仮称)とも受験しない」が突出して多く、7,147人(80.6%)であった。教育学部(仮称)への受験意志を示す選択肢は、「2 教育学部(仮称)を受験したい」と「3 社会学部(仮称)と教育学部(仮称)を受験したい」であり、合わせると916人(10.3%)となった。

問7・問8は問6で「2. 社会学部(仮称)を受験したい」を選択された672人が回答対象のため、本報告書では記載を省略する。

問9・問10は問6で「2. 教育学部(仮称)を受験したい」を選択された方がお答えください。

問9 教育学部(仮称)を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。
(あてはまるもの1つに○印)

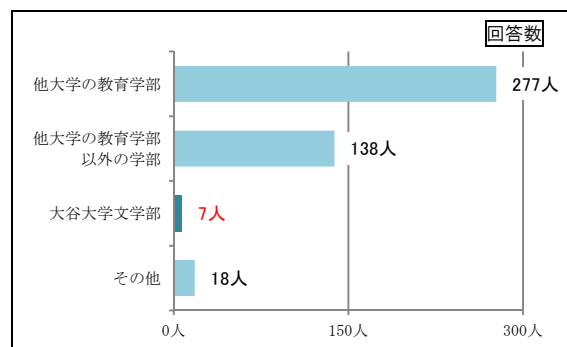
選択肢		回答数	構成比
1	<u>入学したい</u>	270	34.7%
2	併願大学の結果によっては入学したい	505	64.8%
	無回答	4	0.5%
	計	779	100.0%



上記問9において、問6で「2 教育学部(仮称)を受験したい」と回答した779人に対して、入学意志を質問した。第一志望ではないことを示す「2 併願大学の結果によっては入学したい」が505人(64.8%)となり、明確な入学意志を示す「1 入学したい」は270人(34.7%)に留まった。

問9-2 問9で2を選択された方は併願先をお答えください。(あてはまるものすべてに○印)

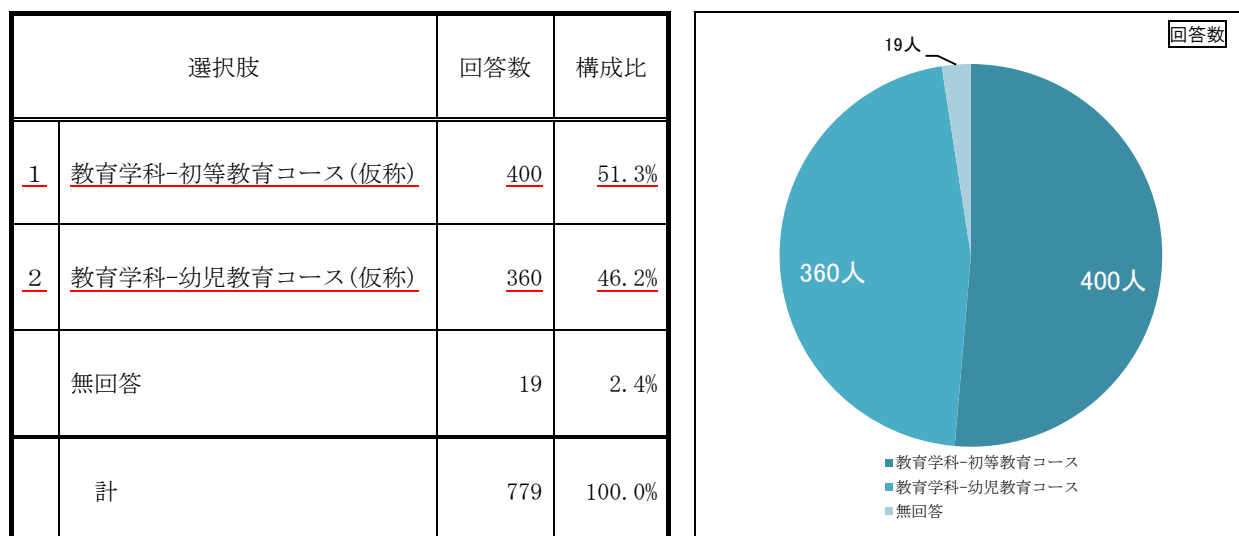
選択肢		回答数	回答率
1	他大学の教育学部	277	54.9%
2	他大学の教育学部 <u>以外</u> の学部	138	27.3%
3	<u>大谷大学文学部</u>	7	1.4%
4	その他	18	3.6%



回答者数=505

上記問9-2において、問9で教育学部(仮称)に「2 併願大学の結果によっては入学したい」と回答した505人に対して、併願先と考えている大学・学部を質問した(複数回答可)。「1 他大学の教育学部」が277人(54.9%)と50%超となった。「2 他大学の教育学部以外の学部」は138人(27.3%)に留まった。なお、「3 大谷大学文学部」についても、多くないものの7人(1.4%)の回答があった。

問10 教育学部(仮称)で「入学したい」「併願大学の結果によっては入学したい」と思っている学科-コースをお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

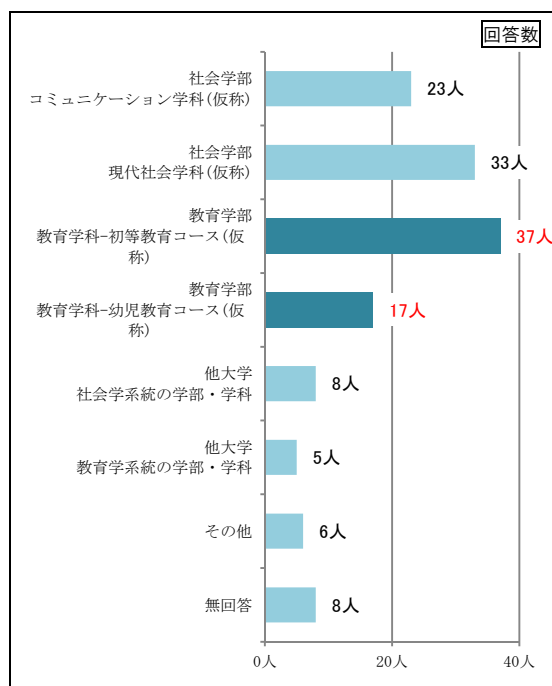


上記問10において、問6で「2 教育学部(仮称)を受験したい」と回答した779人に対して、志望する学科-コースを質問した。「1 教育学科-初等教育コース(仮称)」が400人(51.3%)、「2 教育学科-幼児教育コース(仮称)」が360人(46.2%)の結果となり、教育学科-初等教育コース(仮称)が教育学科-幼児教育コース(仮称)より40(400-360)人多く、5.1(51.3-46.2)ポイント高かった。

問11は問6で「3. 社会学部(仮称)と教育学部(仮称)を受験したい」を選択された方がお答えください。

問11 受験し合格した場合、入学したいと思う学部・学科をお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

	選択肢	回答数	構成比
1	社会学部 コミュニケーション学科(仮称)	23	16.8%
2	社会学部 現代社会学科(仮称)	33	24.1%
3	<u>教育学部 教育学科-初等教育コース(仮称)</u>	<u>37</u>	<u>27.0%</u>
4	<u>教育学部 教育学科-幼児教育コース(仮称)</u>	<u>17</u>	<u>12.4%</u>
5	他大学社会学系統の学部・学科	8	5.8%
6	他大学教育学系統の学部・学科	5	3.6%
7	その他	6	4.4%
	無回答	8	5.8%
	計	137	100.0%

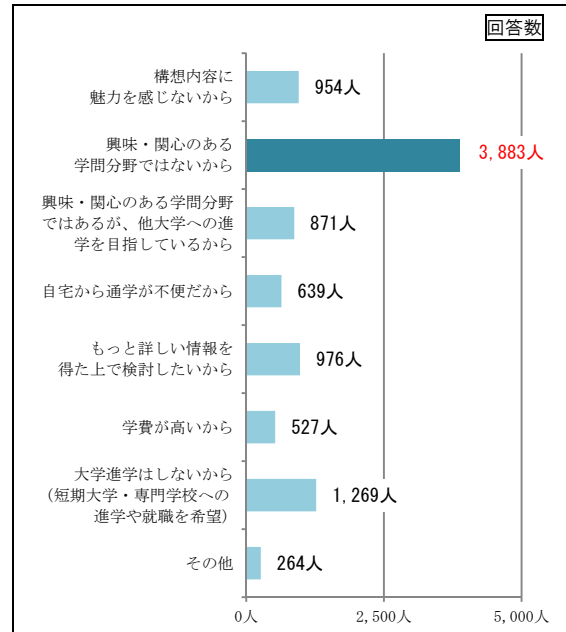


上記問11において、問6で「3 社会学部(仮称)と教育学部(仮称)を受験したい」と回答した137人に対して、入学意志を質問した。教育学部(仮称)については「3 教育学部 教育学科-初等教育コース(仮称)」が37人(27.0%)、「4 教育学部 教育学科-幼児教育コース(仮称)」が17人(12.4%)となった。回答数では、教育学科-初等教育コース(仮称)が教育学科-幼児教育コース(仮称)より20人多かった。

以下の問12・問13は、問6で「4. 社会学部(仮称)、教育学部(仮称)とも受験しない」を選択された方がお答えください。

問12 「社会学部(仮称)、教育学部(仮称)とも受験しない」と回答された理由をお答えください。
(あてはまるものすべてに○印)

選択肢	回答数	回答率
1 構想内容に魅力を感じないから	954	13.3%
2 <u>興味・関心のある学問分野ではないから</u>	<u>3,883</u>	<u>54.3%</u>
3 興味・関心のある学問分野であるが、他大学への進学を目指しているから	871	12.2%
4 自宅から通学が不便だから	639	8.9%
5 もっと詳しい情報を得た上で検討したいから	976	13.7%
6 学費が高いから	527	7.4%
7 大学進学はしないから(短期大学・専門学校への進学や就職を希望)	1,269	17.8%
8 その他	264	3.7%

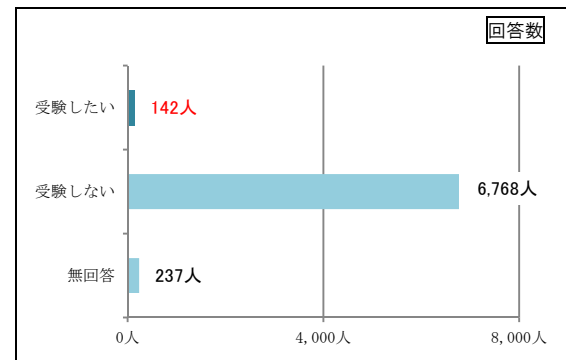


回答者数=7,147

上記問12では問6で「4 社会学部(仮称)、教育学部(仮称)とも受験しない」と回答した7,147人に対して、その理由を質問した(複数回答可)。最も多かったのは、「2 興味・関心のある学問分野ではないから」の3,883人(54.3%)で、唯一50%以上となった。以下、「7 大学進学はしないから(短期大学・専門学校への進学や就職を希望)」が1,269人(17.8%)、「5 もっと詳しい情報を得た上で検討したいから」が976人(13.7%)、「1 構想内容に魅力を感じないから」が954人(13.3%)、「3 興味・関心のある学問分野であるが、他大学への進学を目指しているから」が871人(12.2%)の順に多かった。他の選択肢については10%未満の回答率となった。

問13 あなたは現時点で大谷大学文学部を受験したいと思っていますか。(あてはまるもの1つに○印)

選択肢	回答数	構成比
1 <u>受験したい</u>	<u>142</u>	<u>2.0%</u>
2 受験しない	6,768	94.7%
無回答	237	3.3%
計	7,147	100.0%



上記問13では問6で「4 社会学部(仮称)、教育学部(仮称)とも受験しない」と回答した7,147人に対して、大谷大学文学部の受験意志を質問した。「2 受験しない」が6,768人(94.7%)と圧倒的に多く、「1 受験したい」は142人(2.0%)に留まった。

5. 「設置構想についての高校生アンケート調査」まとめ

本調査の回答結果により、教育学部教育学科初等教育コース(仮称)[入学定員=50人]、教育学部教育学科幼児教育コース(仮称)[入学定員=80人]について、学生確保の見直しを考察する。

本調査は、アンケート調査協力の依頼に対し承諾のあった高等学校78校において調査を実施し、高等学校第2学年に在籍する8,862人より回答を得た。

本調査の問6において、社会学部(仮称)と教育学部(仮称)に対する受験意志を質問し、選択肢別に受験意志を集計した。(問6の回答結果[再掲]参照)

問6の回答結果 [再掲]

	選択肢	回答数	構成比
1	社会学部(仮称)を受験したい	672	7.6%
2	教育学部(仮称)を受験したい	779	8.8%
3	社会学部(仮称)と教育学部(仮称)を受験したい	137	1.5%
4	社会学部(仮称)、教育学部(仮称)とも受験しない	7,147	80.6%
	無回答	127	1.4%
	計	8,862	100.0%

最初に、問6において「教育学部(仮称)を受験したい」と回答した779人について、問9(学部に対する入学意志)の回答(問9の回答結果[再掲]参照)と問10(志望学科-コース)の回答(問10の回答結果[再掲]参照)をクロス集計することにより、各学科に対する入学意志の集計を行った。(表1参照)

問9の回答結果 [再掲]

	選択肢	回答数	構成比
1	入学したい	270	34.7%
2	併願大学の結果によっては入学したい	505	64.8%
	無回答	4	0.5%
	計	779	100.0%

問10の回答結果 [再掲]

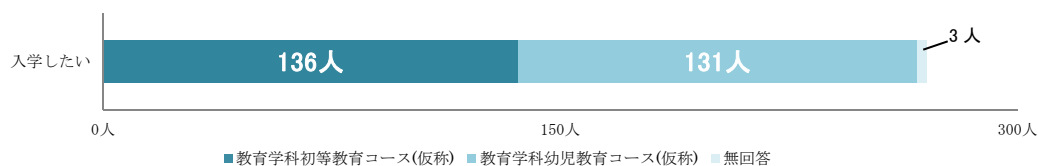
	選択肢	回答数	構成比
1	教育学科-初等教育コース(仮称)	400	51.3%
2	教育学科-幼児教育コース(仮称)	360	46.2%
	無回答	19	2.4%
	計	779	100.0%

表1 問9(学部に対する入学意志)と問10(志望学科-コース)のクロス集計

選択項目	総計		教育学科-初等教育コース(仮称)		教育学科-幼児教育コース(仮称)		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
入学したい	270	34.7%	<u>136</u>	34.0%	<u>131</u>	36.4%	3	15.8%
併願大学の結果によっては入学したい	505	64.8%	264	66.0%	229	63.6%	12	63.2%
無回答	4	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	4	21.1%
計	779	100.0%	400	100.0%	360	100.0%	19	100.0%

上記クロス集計により、問6で「教育学部(仮称)を受験したい」と回答し、問9で教育学部(仮称)に「入学したい」と回答した270人については、教育学科-初等教育コース(仮称)に136人(①)が、教育学科-幼児教育コース(仮称)に131人(②)が、明確な入学意志を示す「入学したい」と回答したことが判明した(「無回答」が3人)。(図2参照)

図1 問9で教育学部(仮称)に「入学したい」と回答した270人の学科-コース別志望



また、問6において「社会学部(仮称)と教育学部(仮称)を受験したい」と回答した137人については、問11で受験し合格した場合、入学したいと思う学部・学科を質問し、教育学部教育学科-初等教育コース(仮称)に37人(③)、教育学部教育学科-幼児教育コース(仮称)に17人(④)が、明確な入学意志を有していることが判明している。(問11の回答結果[再掲]参照)

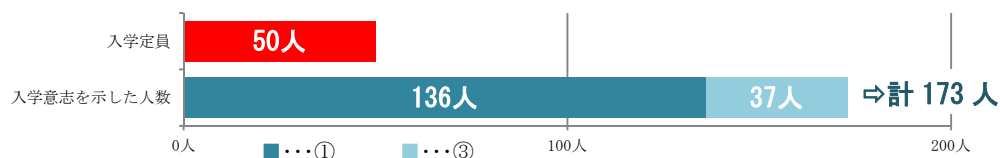
問11の回答結果[再掲]

選択肢	回答数	構成比
1 社会学部 コミュニティデザイン学科(仮称)	23	16.8%
2 社会学部 現代社会学科(仮称)	33	24.1%
<u>3</u> 教育学部 教育学科-初等教育コース(仮称)	<u>37</u>	27.0%
<u>4</u> 教育学部 教育学科-幼児教育コース(仮称)	<u>17</u>	12.4%
無回答	8	5.8%
計	137	100.0%

上記を整理すると、入学意志を示した人数は次頁のとおりとなる。

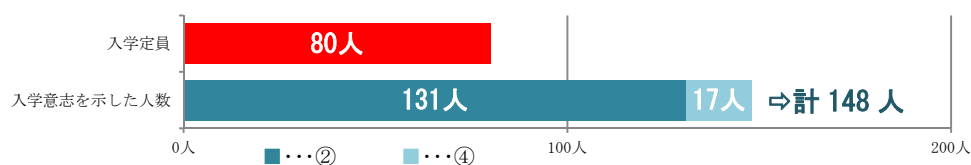
○教育学部教育学科初等教育コース(仮称)は136人(①)と37人(③)を合わせた173人となり、入学定員を123人上回る。(図2参照)

図2 入学定員と入学意志を示した人数－教育学部教育学科初等教育コース(仮称)



○教育学部教育学科幼児教育コース(仮称)は131人(②)と17人(④)を合わせた148人となり、入学定員を68人上回る。(図3参照)

図3 入学定員と入学意志を示した人数－教育学部教育学科幼児教育コース(仮称)



以上により、教育学部教育学科初等教育コース(仮称)、教育学部教育学科幼児教育コース(仮称)については、その入学定員を確保することが十分可能であることが示された。

2章

人材需要の見通し調査

～教育学部(仮称)～

【設置構想についての教育・学習支援関連の事業所等向けアンケート調査】

結果

1. 「設置構想についての教育・学習支援関連の事務所等向けアンケート調査」概要

- ◆調査の目的：本調査は、大谷大学が平成30年4月に設置を予定する教育学部教育学科初等教育コース(仮称)の卒業予定者について、小学校教諭以外の就職における社会的なニーズを、大学外の第三者機関により、教育・学習支援関連の事務所等へのアンケートを用いて計ることを目的とする。
- ◆調査期間：平成28年11月～平成28年12月
- ◆調査方法：対象とする教育・学習支援関連の事業所等の人事・採用担当者宛に、教育学部教育学科初等教育コース(仮称)の卒業予定者に対する採用意向等を尋ねるアンケート用紙(匿名)を送付することにより実施した。
- ◆調査内容：選択肢式及び記述回答式の11問の設問
(主な質問項目)
 - ★回答いただく教育・学習支援関連の事業所等の基本情報について
 - ★教育学部教育学科初等教育コース(仮称)の卒業予定者の採用意向について
- ◆調査対象：大谷大学の求人依頼実績を踏まえ、教育・学習支援関連の事業所等を全国(依頼先)から669件選定し調査対象とした。
(内訳)
 - ★学習塾=402件
 - ★教育・学習支援事業=100件
 - ★教科書出版・販売=167件
- ◆有効回収件数：68件(依頼件数=669件/回収率=10.2%)
- ◆調査実施主体：株式会社紀伊國屋書店、株式会社高等教育総合研究所

2. 「設置構想についての教育・学習支援関連の事務所等向けアンケート調査」集計結果

問1 業務内容についてお答えください。(最もあてはまるもの1つに○印)

選択肢		回答数	構成比
1	学習塾等	28	41.2%
2	通信教育・オンライン学習	1	1.5%
3	教科書・参考書出版	8	11.8%
4	学習教材の開発・販売	2	2.9%
5	教養・技能関連教室(書道・音楽・スポーツ等)	8	11.8%
6	その他	19	27.9%
	無回答	2	2.9%
	計	68	100.0%

問2 所在地(本社・主たる事業所等)をお答えください。(あてはまる番号を記入)

選択肢		回答数	構成比
6	山形県	1	1.5%
13	東京都	16	23.5%
14	神奈川県	6	8.8%
17	石川県	1	1.5%
20	長野県	1	1.5%
21	岐阜県	1	1.5%
22	静岡県	2	2.9%
23	愛知県	4	5.9%
24	三重県	1	1.5%
26	京都府	3	4.4%
27	大阪府	15	22.1%
28	兵庫県	4	5.9%
34	広島県	2	2.9%
36	徳島県	3	4.4%
37	香川県	1	1.5%
38	愛媛県	2	2.9%
40	福岡県	1	1.5%
	無回答	4	5.9%
	計	68	100.0%

回答のあった選択肢のみ記載。

問3 従業員規模をお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

選択肢		回答数	構成比
1	100人未満	55	80.9%
2	100人以上	8	11.8%
3	500人以上	4	5.9%
4	1000人以上	1	1.5%
計		68	100.0%

問4 従業員の方で「小学校教諭一種免許状」を保有している方の人数をお答えください。
(あてはまるもの1つに○印)

選択肢		回答数	構成比
1	5人未満	38	55.9%
2	5人以上	1	1.5%
3	10人以上	3	4.4%
4	15人以上	0	0.0%
5	20人以上	4	5.9%
6	25人以上	0	0.0%
7	30人以上	1	1.5%
8	0人(小学校教諭一種免許状の保有者はいません)	17	25.0%
無回答		4	5.9%
計		68	100.0%

問5 「小学校教諭一種免許状」の保有者の担当業務をお答えください。
(あてはまるものすべてに○印)

選択肢		回答数	回答率
1	学習塾等の講師	24	35.3%
2	通信添削	0	0.0%
3	教科書等開発	0	0.0%
4	学習教材の開発	5	7.4%
5	その他	19	27.9%
6	ありません(小学校教諭一種免許状の保有者はいません)	27	39.7%

回答者数=68

問6 人材採用時、「小学校教諭一種免許状」の保有者をどのように評価しているのかお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

選択肢		回答数	構成比
1	すべての採用者に必須としている	1	1.5%
2	一部採用者に必須としている	3	4.4%
3	必須でないが評価する	25	36.8%
4	特に評価しない	31	45.6%
5	わからない	7	10.3%
	無回答	1	1.5%
	計	68	100.0%

問7 2016年4月に採用した新卒者で「小学校教諭一種免許状」を保有している方の人数をお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

選択肢		回答数	構成比
1	5人未満	57	83.8%
2	5人以上	0	0.0%
3	10人以上	0	0.0%
	無回答	11	16.2%
	計	68	100.0%

問8 新卒者を採用する際に、求める能力等をお答えください。(あてはまるものすべてに○印)

選択肢		回答数	回答率
1	コミュニケーション能力	61	89.7%
2	基礎的な学力	36	52.9%
3	専攻学問の専門的な知識	13	19.1%
4	語学力	10	14.7%
5	考え抜く力	26	38.2%
6	前に踏み出す力	27	39.7%
7	目的達成志向	35	51.5%
8	適応力	43	63.2%
9	インターンシップ経験	2	2.9%
10	ボランティア経験	3	4.4%
11	忍耐力	32	47.1%
12	理解力	33	48.5%
13	論理力	17	25.0%
14	取得資格・免許(見込含む)	4	5.9%

回答者数=68

問9 大谷大学が設置構想中の教育学部教育学科(仮称)の初等教育コース(仮称)を卒業した学生を採用したいと思われませんか。(あてはまるもの1つに○印)

選択肢		回答数	構成比
1	採用したいと思う	17	25.0%
2	採用を検討したいと思う	9	13.2%
3	どちらとも言えない	34	50.0%
4	採用したいと思わない	6	8.8%
	無回答	2	2.9%
	計	68	100.0%

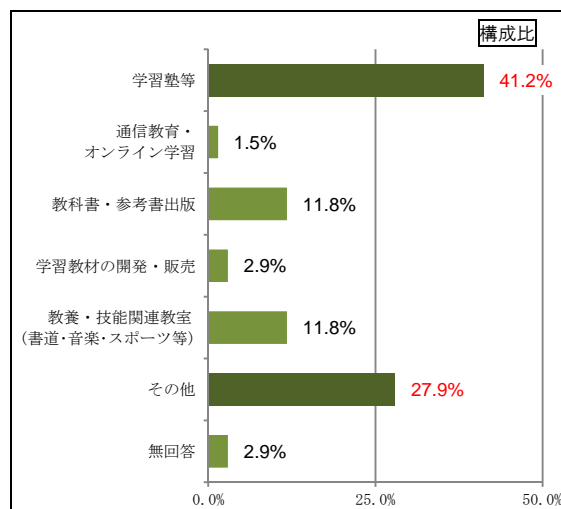
問10 「問9」で「1. 採用したいと思う」「2. 採用を検討したいと思う」とお答えいただいた場合、ご回答ください。現時点で、採用可能と思われる人数は何人ですか。(人数を記入)

人 数		回答数	構成比
1	1人	11	42.3%
2	2人	6	23.1%
3	3人	2	7.7%
4	5人	3	11.5%
5	10人	1	3.8%
6	未定	1	3.8%
	無回答	2	7.7%
	計	26	100.0%

3. 「設置構想についての教育・学習支援関連の事務所等向けアンケート調査」調査結果の分析

問1 業務内容についてお答えください。(最もあてはまるもの1つに○印)

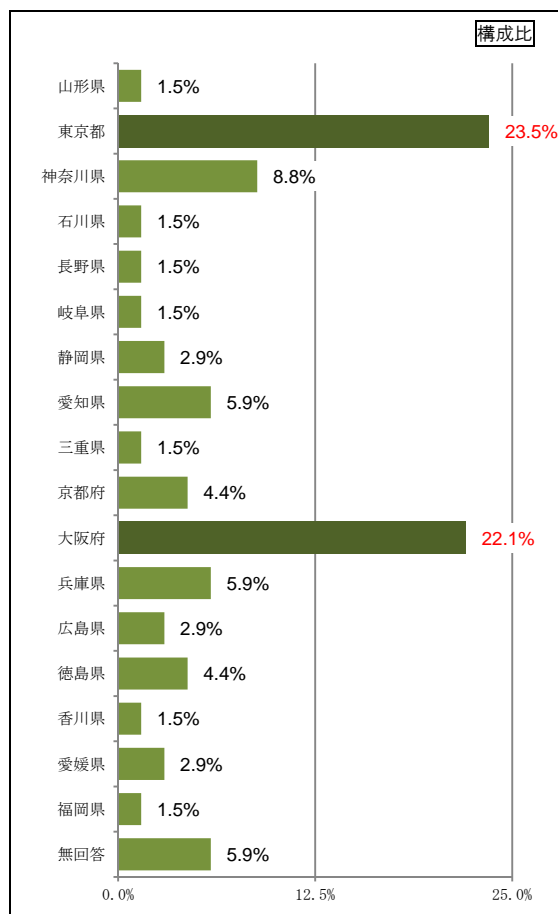
	選択肢	回答数	構成比
1	<u>学習塾等</u>	<u>28</u>	<u>41.2%</u>
2	通信教育・オンライン学習	1	1.5%
3	教科書・参考書出版	8	11.8%
4	学習教材の開発・販売	2	2.9%
5	教養・技能関連教室 (書道・音楽・スポーツ等)	8	11.8%
6	<u>その他</u>	<u>19</u>	<u>27.9%</u>
	無回答	2	2.9%
	計	68	100.0%



【業務内容】問1において、回答のあった教育・学習支援関連の事務所等の業務内容を質問した。回答のあった教育・学習支援関連の事務所等のうち、「1 学習塾」が最も多く41.2%(28件)、次いで「6 その他」が27.9%(19件)となった。他の業務内容は10件未満に留まった。

問2 所在地(本社・主たる事業所等)をお答えください。(あてはまる番号を記入)

	選択肢	回答数	構成比
6	山形県	1	1.5%
13	東京都	16	23.5%
14	神奈川県	6	8.8%
17	石川県	1	1.5%
20	長野県	1	1.5%
21	岐阜県	1	1.5%
22	静岡県	2	2.9%
23	愛知県	4	5.9%
24	三重県	1	1.5%
26	京都府	3	4.4%
27	大阪府	15	22.1%
28	兵庫県	4	5.9%
34	広島県	2	2.9%
36	徳島県	3	4.4%
37	香川県	1	1.5%
38	愛媛県	2	2.9%
40	福岡県	1	1.5%
	無回答	4	5.9%
	計	68	100.0%

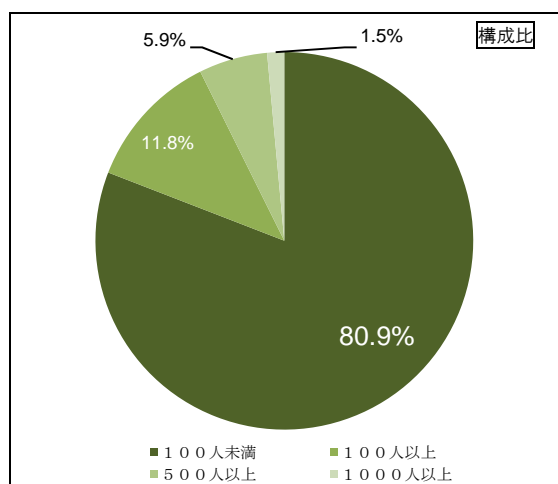


回答のあった選択肢のみ記載。

【所在地】問2において、回答のあった教育・学習支援関連の事務所等の所在地を質問した。回答のあった教育・学習支援関連の事務所等のうち、「13 東京都」が23.5%(16件)、「27 大阪府」が22.1%(15件)となった。合わせると45.6%(31件)となり、1都・1府で40%以上を占めた。

問3 従業員規模をお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

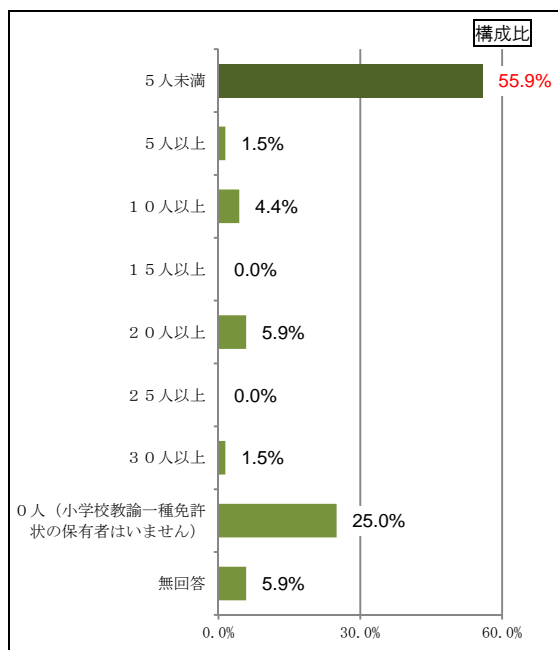
	選択肢	回答数	構成比
1	100人未満	55	80.9%
2	100人以上	8	11.8%
3	500人以上	4	5.9%
4	1000人以上	1	1.5%
	計	68	100.0%



【従業員規模】問3において、回答のあった教育・学習支援関連の事務所等の従業員規模を質問した。回答のあった教育・学習支援関連の事務所等のうち、80.9%(55件)が「1 100人未満」であり、他の従業員規模の回答数は10件未満に留まった。

問4 従業員の方で「小学校教諭一種免許状」を保有している方の人数をお答えください。
(あてはまるもの1つに○印)

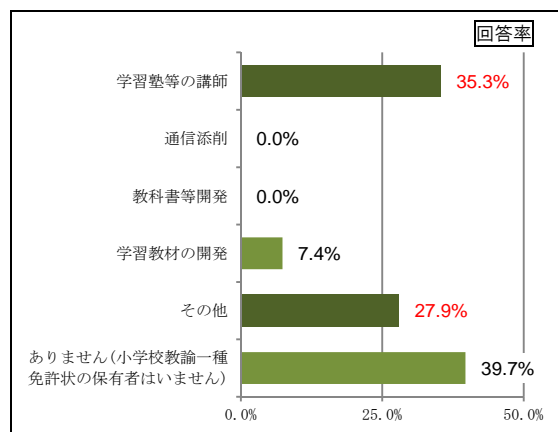
選択肢		回答数	構成比
1	5人未満	38	55.9%
2	5人以上	1	1.5%
3	10人以上	3	4.4%
4	15人以上	0	0.0%
5	20人以上	4	5.9%
6	25人以上	0	0.0%
7	30人以上	1	1.5%
8	0人(小学校教諭一種免許状の保有者はいません)	17	25.0%
	無回答	4	5.9%
	計	68	100.0%



【従業員の「小学校教諭一種免許状」の保有人数】問4において、回答のあった教育・学習支援関連の事務所等における従業員の「小学校教諭一種免許状」の保有人数を質問した。回答のあった教育・学習支援関連の事務所等のうち、「1 5人未満」が55.9%(38件)と最も多かった。なお、「8 0人(小学校教諭一種免許状の保有者はいません)」の回答も25.0%(17件)を占めた。

問5 「小学校教諭一種免許状」の保有者の担当業務をお答えください。
(あてはまるものすべてに○印)

選択肢		回答数	回答率
1	学習塾等の講師	24	35.3%
2	通信添削	0	0.0%
3	教科書等開発	0	0.0%
4	学習教材の開発	5	7.4%
5	その他	19	27.9%
6	ありません(小学校教諭一種免許状の保有者はいません)	27	39.7%

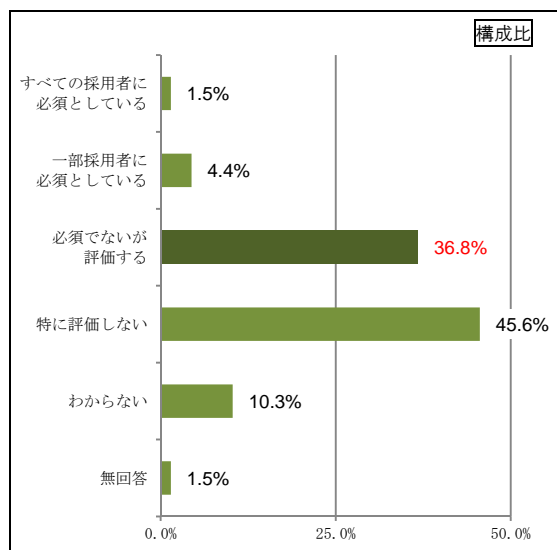


回答者数=68

【「小学校教諭一種免許状」保有者の担当業務】問5において、回答のあった教育・学習支援関連の事務所等における「小学校教諭一種免許状」保有者の担当業務を質問した。回答のあった教育・学習支援関連の事務所等のうち、「6 ありません(小学校教諭一種免許状の保有者はいません)」が39.7%(27件)と最も多かったものの、「1 学習塾等の講師」が35.3%(24件)と微差で続き、「5 その他」が27.9%(19件)となった。

問6 人材採用時、「小学校教諭一種免許状」の保有者をどのように評価しているのかお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

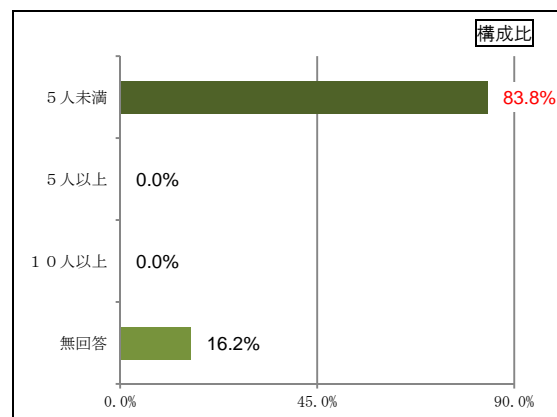
選択肢		回答数	構成比
1	すべての採用者に必須としている	1	1.5%
2	一部採用者に必須としている	3	4.4%
3	<u>必須ではないが評価する</u>	<u>25</u>	<u>36.8%</u>
4	特に評価しない	31	45.6%
5	わからない	7	10.3%
	無回答	1	1.5%
	計	68	100.0%



【「小学校教諭一種免許状」保有者の評価】問6において、回答のあった教育・学習支援関連の事務所等が人材採用時に「小学校教諭一種免許状」の保有者をどのように評価しているのか質問した。回答のあった教育・学習支援関連の事務所等のうち、「4 特に評価しない」が45.6%(31件)と最も多かったものの、「3 必須ではないが評価する」が36.8%(25件)と次いで多かった。

問7 2016年4月に採用した新卒者で「小学校教諭一種免許状」を保有している方の人数をお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

選択肢		回答数	構成比
1	<u>5人未満</u>	<u>57</u>	<u>83.8%</u>
2	5人以上	0	0.0%
3	10人以上	0	0.0%
	無回答	11	16.2%
	計	68	100.0%

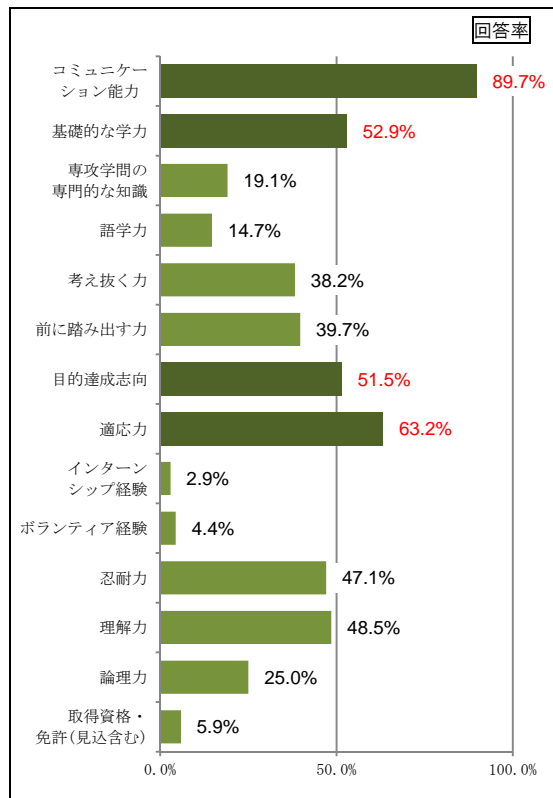


【新卒者の「小学校教諭一種免許状」保有者の人数】問7において、回答のあった教育・学習支援関連の事務所等が2016年4月に採用した新卒者で「小学校教諭一種免許状」を保有している方の人数を質問した。回答のあった教育・学習支援関連の事務所等のうち、「1 5人未満」83.8%(57件)と最も多かったが、「2 5人以上」「3 10人以上」の回答は皆無であった。

問8 新卒者を採用する際に、求める能力等をお答えください。(あてはまるものすべてに○印)

選択肢	回答数	回答率
1 <u>コミュニケーション能力</u>	61	89.7%
2 <u>基礎的な学力</u>	36	52.9%
3 専攻学問の専門的な知識	13	19.1%
4 語学力	10	14.7%
5 考え抜く力	26	38.2%
6 前に踏み出す力	27	39.7%
7 <u>目的達成志向</u>	35	51.5%
8 <u>適応力</u>	43	63.2%
9 インターンシップ経験	2	2.9%
10 ボランティア経験	3	4.4%
11 忍耐力	32	47.1%
12 理解力	33	48.5%
13 論理力	17	25.0%
14 取得資格・免許(見込含む)	4	5.9%

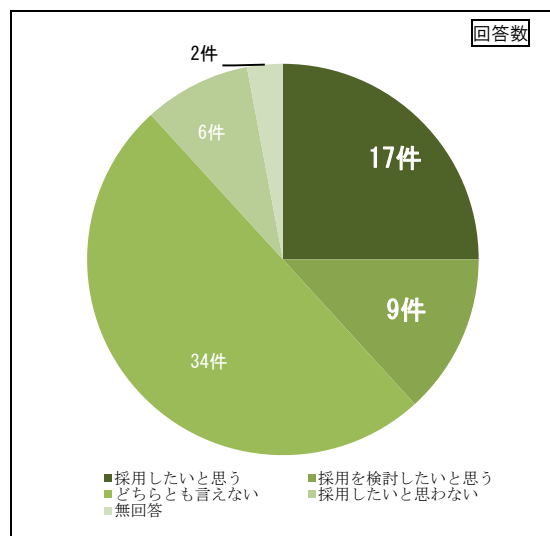
回答者数=68



【求める能力等】問8において、回答のあった教育・学習支援関連の事務所等が求める能力等を質問した(複数回答可)。回答のあった教育・学習支援関連の事務所等の89.7%(61件)が「1 コミュニケーション」を挙げ、最も多かった。その後に、「8 適応力(63.2%)」、「2 基礎的な学力(52.9%)」、「7 目的達成志向(51.5%)」と続き、いずれも50%以上の回答率であった。

問9 大谷大学が設置構想中の教育学部教育学科(仮称)の初等教育コース(仮称)を卒業した学生を採用したいと思われませんか。(あてはまるもの1つに○印)

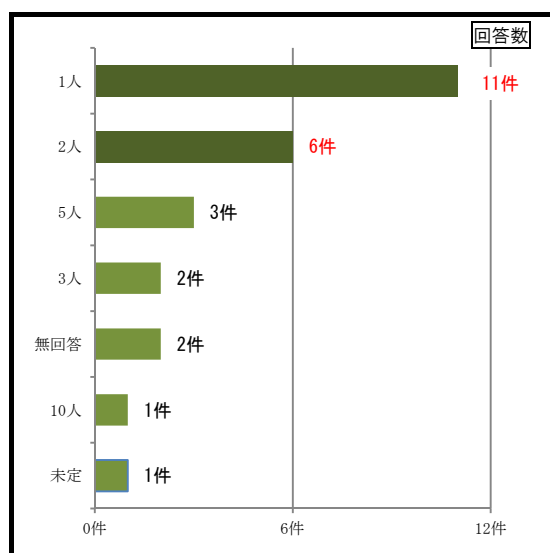
選択肢		回答数	構成比
1	<u>採用したいと思う</u>	17	25.0%
2	<u>採用を検討したいと思う</u>	9	13.2%
3	どちらとも言えない	34	50.0%
4	採用したいと思わない	6	8.8%
	無回答	2	2.9%
	計	68	100.0%



【採用意向】 問9において、回答のあった教育・学習支援関連の事務所等に教育学部教育学科(仮称)の初等教育コース(仮称)を卒業した学生の採用意向を質問した。「3 どちらとも言えない」が34件(50.0%)と最も多かったものの、「1 採用したいと思う」が17件(25.0%)、「2 採用を検討したいと思う」も9件(13.2%)あり、合わせると26件(38.2%)となった。

問10 「問9」で「1. 採用したいと思う」「2. 採用を検討したいと思う」とお答えいただいた場合、ご回答ください。現時点で、採用可能と思われる人数は何人ですか。(人数を記入)

人数		回答数	構成比
1	<u>1人</u>	11	42.3%
2	<u>2人</u>	6	23.1%
3	3人	2	7.7%
4	5人	3	11.5%
5	10人	1	3.8%
6	未定	1	3.8%
	無回答	2	7.7%
	計	26	100.0%



【採用可能な人数】 問10において、問9で「1 採用したいと思う」「2 採用を検討したいと思う」と回答した教育・学習支援関連の事務所等(26件)に対して、現時点で採用可能と思われる人数を質問した。「1人」の回答が11件(42.3%)と最も多く、続いて「2人」の回答が6件(23.1%)であった。

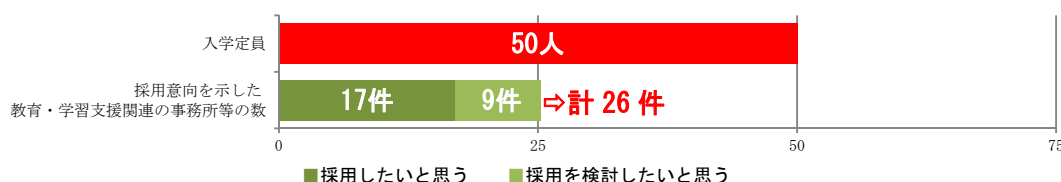
報告書 第2章 4.「設置構想についての教育・学習支援関連の事務所等向けアンケート調査」記述式設問に対する自由回答は記載を省略する。

5. 「設置構想についての教育・学習支援関連の事務所等向けアンケート調査」まとめ

本調査の回答結果により、教育学部教育学科初等教育コース(仮称)の卒業予定者の小学校教諭以外の就職における社会的なニーズを考察する。本調査は、対象とする教育・学習支援関連の事務所等の人事・採用担当者宛に、教育学部教育学科初等教育コース(仮称)の卒業予定者に対する採用意向等を尋ねるアンケート用紙(匿名)を送付することにより実施し、68件の教育・学習支援関連の事務所等より回答を得た。

本調査の問9において、「1 採用したいと思う」の17件と「2 採用を検討したいと思う」の9件を合わせると、26件となった。教育学部教育学科初等教育コース(仮称)が予定する入学定員は50人であり、採用意向を示した教育・学習支援関連の事務所等(26件)は教育学部教育学科初等教育コース(仮称)の入学定員(50人)の半数(25人)を超えている。(図1参照)

図1 教育学部教育学科初等教育コース(仮称)の卒業予定者に対して採用意向を示した教育・学習支援関連の事務所等の数



また、本調査の問10において、問9で「1 採用したいと思う」「2 採用を検討したいと思う」と回答した教育・学習支援関連の事務所等(26件)に対して、現時点で採用可能と思われる人数を質問した。問10の回答結果(下表参照)を基に具体的な採用可能人数を算出した。その際、「未定」、「無回答」は最低でも「1人」が見込まれるが集計外とし、明確な記載のあった数値のみで算出した結果、採用可能人数は54人となった。この数値は教育学部教育学科初等教育コース(仮称)の入学定員(50人)を4人上回っている。

(次頁 図2参照)

問10における回答結果(表のみ抜粋) [再掲]

人数	回答数	構成比
1	11	42.3%
2	6	23.1%
3	2	7.7%
4	3	11.5%
5	1	3.8%
6	1	3.8%
無回答	2	7.7%
計	26	100.0%

～具体的な採用可能人数の算出結果～

1人	→	1人 × 11件	=	11人
2人	→	2人 × 6件	=	12人
3人	→	3人 × 2件	=	6人
5人	→	5人 × 3件	=	15人
10人	→	10人 × 1件	=	10人
未定	→	集計外		
無回答	→	集計外		
合計			=	54人

図2 教育学部教育学科初等教育コース(仮称)の卒業予定者に対して採用意向を示した教育・学習支援関連の事務所等の採用可能人数



以上により、教育学部教育学科初等教育コース(仮称)の卒業予定者に対する教育・学習支援関連の事務所等からのニーズはあり、小学校教諭以外の就職先についても十分に確保されていることが明確に示された。

3章

人材需要の見通し調査

～教育学部(仮称)～

【設置構想についての幼稚園・保育所等向けアンケート調査】

結 果

1. 「設置構想についての幼稚園・保育所等向けアンケート調査」概要

- ◆調査の目的：本調査は、大谷大学が平成30年4月に設置を予定する教育学部教育学科幼児教育コース(仮称)の卒業予定者の就職における社会的なニーズを、大学外の第三者機関により、幼稚園・保育所等へのアンケートを用いて計ることを目的とする。
- ◆調査期間：平成28年11月～平成28年12月
- ◆調査方法：対象とする幼稚園・保育所等の人事・採用担当者宛に、教育学部教育学科幼児教育コース(仮称)の卒業予定者に対する採用意向等を尋ねるアンケート用紙(匿名)を送付することにより実施した。
- ◆調査内容：選択肢式及び記述回答式の11問の設問
(主な質問項目)
 - ★回答いただく幼稚園・保育所等の基本情報について
 - ★教育学部教育学科初等教育コース(仮称)の卒業予定者の採用意向について
- ◆調査対象：大谷大学の求人依頼実績を踏まえ、2府・1県(京都府、大阪府、滋賀県)を中心に、幼稚園・保育所等を514件選定し調査対象とした。
(内訳)
 - ★幼稚園=175件
 - ★保育所=275件
 - ★認定こども園等=24件
 - ★施設=34件
 - ★その他=6件
- ◆有効回収件数：203件(依頼件数=514件/回収率=39.5%)
- ◆調査実施主体：株式会社紀伊國屋書店、株式会社高等教育総合研究所

2. 「設置構想についての幼稚園・保育所等向けアンケート調査」集計結果

問1 貴園・貴所についてお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

選択肢		回答数	構成比
1	幼稚園	78	38.4%
2	認定こども園	26	12.8%
3	保育所	87	42.9%
4	児童福祉施設(保育所以外)	3	1.5%
5	児童養護施設	4	2.0%
6	乳児院	2	1.0%
7	その他	3	1.5%
	計	203	100.0%

問2 貴園・貴所の所在地をお答えください。(あてはまる番号を記入)

選択肢		回答数	構成比
25	滋賀県	43	21.2%
26	京都府	127	62.6%
27	大阪府	27	13.3%
28	兵庫県	1	0.5%
29	奈良県	5	2.5%
	計	203	100.0%

回答のあった選択肢のみ記載。

問3 貴園・貴所の現時点における園児・幼児数をお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

選択肢		回答数	構成比
1	～35人	4	2.0%
2	36人～70人	18	8.9%
3	71人～105人	23	11.3%
4	106人～140人	55	27.1%
5	141人～175人	38	18.7%
6	176人～210人	23	11.3%
7	211人以上	42	20.7%
	計	203	100.0%

問4 貴園・貴所において勤務されている幼稚園教諭・保育士の人数をお答えください。
(該当する人数を記入)

◆幼稚園教諭（合計）

人 数		回答数	人数合計 (人数×回答数)
1	1人	3	3
2	2人	3	6
3	3人	1	3
4	4人	1	4
5	5人	1	5
6	6人	1	6
7	7人	2	14
8	8人	2	16
9	9人	4	36
10	10人	6	60
11	11人	10	110
12	12人	4	48
13	13人	5	65
14	14人	6	84
15	15人	7	105
16	16人	7	112
17	17人	6	102
18	18人	3	54
19	20人	3	60
20	21人	2	42
21	23人	3	69
22	25人	2	50
23	28人	1	28
24	29人	1	29
25	30人	1	30
26	34人	1	34
	計	86	1,175

注. 人数の記載があった回答のみ記載。

◆幼稚園教諭（4年制大学卒）

人 数		回答数	人数合計 (人数×回答数)
1	1人	16	16
2	2人	21	42
3	3人	12	36
4	4人	8	32
5	5人	3	15
6	6人	6	36
7	8人	1	8
8	10人	3	30
9	23人	1	23
	計	71	238

注. 人数の記載があった回答のみ記載。

◆保育士（合計）

人 数		回答数	人数合計 (人数×回答数)
1	1人	2	2
2	2人	5	10
3	3人	1	3
4	4人	1	4
5	5人	1	5
6	6人	4	24
7	7人	4	28
8	8人	3	24
9	9人	1	9
10	12人	2	24
11	13人	3	39
12	14人	6	84
13	15人	4	60
14	16人	2	32
15	17人	3	51
16	18人	2	36
17	19人	5	95
18	20人	9	180
19	21人	5	105
20	22人	3	66
21	23人	4	92
22	24人	8	192
23	25人	2	50
24	26人	2	52
25	27人	2	54
26	28人	1	28
27	29人	2	58
28	30人	4	120
29	31人	3	93
30	32人	3	96
31	34人	1	34
32	35人	1	35
33	36人	5	180
34	38人	3	114
35	40人	2	80
	計	109	2,159

注. 人数の記載があった回答のみ記載。

◆保育士（4年制大学卒）

人 数		回答数	人数合計 (人数×回答数)
1	1人	24	24
2	2人	12	24
3	3人	11	33
4	4人	12	48
5	5人	6	30
6	6人	6	36
7	7人	3	21
8	8人	1	8
9	12人	1	12
	計	76	236

注. 人数の記載があった回答のみ記載。

認定こども園などの場合において、2つの資格を有し、両業務に従事する人数をお答えください。
なお、記載いただく人数は、上の幼稚園教諭・保育士の人数に含めず、外数でお答えください。

◆保育教諭（合計）

〔幼稚園教諭と保育士の資格を有し、両業務に従事する者〕

人数	回答数	人数合計 (人数×回答数)
1	1人	1
2	4人	4
3	7人	7
4	14人	14
5	16人	16
6	18人	36
7	19人	38
8	20人	60
9	22人	22
10	23人	23
11	25人	50
12	26人	52
13	28人	28
14	29人	58
15	30人	30
16	31人	62
17	33人	33
18	35人	35
19	36人	72
20	44人	44
計	29	685

注. 人数の記載があった回答のみ記載。

◆保育教諭（4年制大学卒）

〔幼稚園教諭と保育士の資格を有し、両業務に従事する者〕

人数	回答数	人数合計 (人数×回答数)
1	1人	8
2	2人	6
3	3人	3
4	4人	24
5	5人	5
6	6人	12
7	7人	7
8	9人	9
計	23	74

注. 人数の記載があった回答のみ記載。

問5 貴園・貴所において2016年4月に採用された新卒の幼稚園教諭・保育士の人数をお答えください。(該当する人数)

◆採用した幼稚園教諭（合計）

人 数		回答数	人数合計 (人数×回答数)
1	1人	22	22
2	2人	17	34
3	3人	10	30
4	4人	4	16
5	5人	4	20
6	7人	1	7
7	9人	1	9
	計	59	138

注. 人数の記載があった回答のみ記載。

◆採用した幼稚園教諭（4年制大学卒）

人 数		回答数	人数合計 (人数×回答数)
1	1人	13	13
2	2人	9	18
3	3人	3	9
4	4人	1	4
	計	26	44

注. 人数の記載があった回答のみ記載。

◆採用した保育士（合計）

人 数		回答数	人数合計 (人数×回答数)
1	1人	19	19
2	2人	27	54
3	3人	16	48
4	4人	10	40
5	5人	2	10
6	19人	1	19
	計	75	190

注. 人数の記載があった回答のみ記載。

◆採用した保育士（4年制大学卒）

人 数		回答数	人数合計 (人数×回答数)
1	1人	19	19
2	2人	4	8
3	3人	1	3
4	4人	1	4
5	5人	1	5
	計	26	39

注. 人数の記載があった回答のみ記載。

◆採用した保育教諭（合計）

〔幼稚園教諭と保育士の資格を有し、両業務に従事する者〕

人 数		回答数	人数合計 (人数×回答数)
1	1人	4	4
2	2人	4	8
3	3人	4	12
4	4人	6	24
5	5人	3	15
6	6人	2	12
	計	23	75

注. 人数の記載があった回答のみ記載。

◆採用した保育教諭（4年制大学卒）

〔幼稚園教諭と保育士の資格を有し、両業務に従事する者〕

人 数		回答数	人数合計 (人数×回答数)
1	1人	9	9
2	2人	3	6
3	3人	1	3
	計	13	18

注. 人数の記載があった回答のみ記載。

⇒以下の問6は、問4で「各資格を保有して勤務する者」の人数を示した施設を対象に集計した。

問6 貴園・貴所における幼稚園教諭・保育士の今後の採用見通しについてお答えください。
(貴園・貴所で勤務される人材について、最もあてはまる番号をご記入ください。)

◆幼稚園教諭免許状の保有者

選択肢		回答数	構成比
1	不足しており、採用数を増やしたい	23	26.7%
2	適度に充足しており現行並みの採用数を維持したい	52	60.5%
3	過剰であり、採用数を減らしたい	0	0.0%
4	わからない	2	2.3%
	無回答	9	10.5%
	計	86	100.0%

◆保育士資格の保有者

選択肢		回答数	構成比
1	不足しており、採用数を増やしたい	44	40.4%
2	適度に充足しており現行並みの採用数を維持したい	48	44.0%
3	過剰であり、採用数を減らしたい	0	0.0%
4	わからない	5	4.6%
	無回答	12	11.0%
	計	109	100.0%

◆幼稚園教諭免許状・保育士資格の両方の保有者

選択肢		回答数	構成比
1	不足しており、採用数を増やしたい	19	65.5%
2	適度に充足しており現行並みの採用数を維持したい	7	24.1%
3	過剰であり、採用数を減らしたい	0	0.0%
4	わからない	2	6.9%
	無回答	1	3.4%
	計	29	100.0%

問7 貴園・貴所では、4年制大学、短期大学、保育専門学校のうち、今後いずれの卒業者を採用したいとお考えですか。(最もあてはまるもの1つに○印)

選択肢		回答数	構成比
1	4年制大学	30	14.8%
2	短期大学	24	11.8%
3	保育専門学校	0	0.0%
4	特にこだわらない	141	69.5%
	無回答	8	3.9%
	計	203	100.0%

⇒問7の結果を幼稚園・保育所別にみた場合は、以下の通りである。

◆ 幼稚園

選択肢		回答数	構成比
1	4年制大学	14	17.9%
2	短期大学	12	15.4%
3	保育専門学校	0	0.0%
4	特にこだわらない	48	61.5%
	無回答	4	5.1%
	計	78	100.0%

◆ 保育所

選択肢		回答数	構成比
1	4年制大学	7	8.0%
2	短期大学	12	13.8%
3	保育専門学校	0	0.0%
4	特にこだわらない	65	74.7%
	無回答	3	3.4%
	計	87	100.0%

問8 貴園・貴所では、新卒の幼稚園教諭・保育士を採用される際、重視する内容をお答えください。(あてはまるものすべてに○印)

	選択肢	回答数	回答率
1	コミュニケーション能力	163	80.3%
2	基礎的な学力	111	54.7%
3	幼児教育・保育の専門知識	90	44.3%
4	社会常識・マナー	157	77.3%
5	積極性・行動力	130	64.0%
6	幼児への愛情	134	66.0%
7	チームで働く力	149	73.4%
8	幼児教育・保育への情熱	139	68.5%
9	目的達成能力	39	19.2%
10	トラブル・問題解決能力	47	23.2%
11	特別なケアを要する幼児への対応力	33	16.3%
12	その他	24	11.8%

回答者数=203

問9 大谷大学が設置構想中の教育学部教育学科(仮称)の幼児教育コース(仮称)を卒業した学生を採用したいと思われませんか。(あてはまるもの1つに○印)

選択肢		回答数	構成比
1	採用したいと思う	88	43.3%
2	採用を検討したいと思う	81	39.9%
3	どちらとも言えない	31	15.3%
4	採用したいと思わない	3	1.5%
	計	203	100.0%

⇒問9の結果を幼稚園・保育所別にみた場合は、以下の通りである。

◆ 幼稚園

選択肢		回答数	構成比
1	採用したいと思う	30	38.5%
2	採用を検討したいと思う	29	37.2%
3	どちらとも言えない	17	21.8%
4	採用したいと思わない	2	2.6%
	計	78	100.0%

◆ 保育所

選択肢		回答数	構成比
1	採用したいと思う	39	44.8%
2	採用を検討したいと思う	39	44.8%
3	どちらとも言えない	8	9.2%
4	採用したいと思わない	1	1.1%
	計	87	100.0%

問10 「問9」で「1. 採用したいと思う」「2. 採用を検討したいと思う」とお答えいただいた場合、ご回答ください。現時点で、採用可能と思われる人数は何人ですか。(人数を記入)

人 数		回答数	構成比
1	1人	47	27.8%
2	2人	56	33.1%
3	3人	15	8.9%
4	4人	4	2.4%
5	5人	3	1.8%
6	10人	1	0.6%
7	1～2人	9	5.3%
8	2～3人	3	1.8%
9	3～4人	1	0.6%
10	未定	2	1.2%
	無回答	28	16.6%
	計	169	100.0%

⇒問10の結果を幼稚園・保育所別にみた場合は、次頁の通りである。

◆ 幼稚園

人 数		回答数	構成比
1	1人	21	35.6%
2	2人	18	30.5%
3	3人	5	8.5%
4	4人	1	1.7%
5	5人	2	3.4%
6	1～2人	2	3.4%
7	2～3人	1	1.7%
8	未定	1	1.7%
	無回答	8	13.6%
	計	59	100.0%

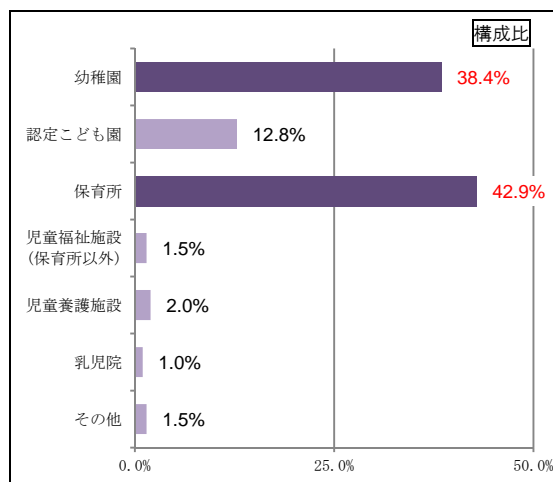
◆ 保育所

人 数		回答数	構成比
1	1人	20	25.6%
2	2人	27	34.6%
3	3人	5	6.4%
4	4人	2	2.6%
5	5人	1	1.3%
6	1～2人	6	7.7%
7	2～3人	2	2.6%
8	3～4人	1	1.3%
9	未定	1	1.3%
	無回答	13	16.7%
	計	78	100.0%

3. 「設置構想についての幼稚園・保育所等向けアンケート調査」調査結果の分析

問1 貴園・貴所についてお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

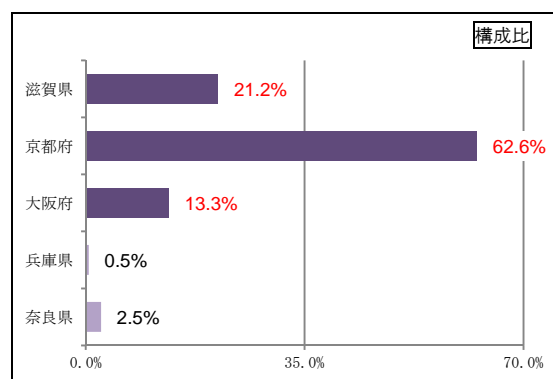
	選択肢	回答数	構成比
1	幼稚園	78	38.4%
2	認定こども園	26	12.8%
3	保育所	87	42.9%
4	児童福祉施設(保育所以外)	3	1.5%
5	児童養護施設	4	2.0%
6	乳児院	2	1.0%
7	その他	3	1.5%
	計	203	100.0%



【貴園・貴所について】問1において、回答のあった幼稚園・保育所等について質問した。回答のあった幼稚園・保育所等のうち、「3 保育所」が42.9%(87件)、「1 幼稚園」が38.4%(78件)となった。合わせると81.3%(165件)となり、幼稚園・保育所で80%以上を占めた。

問2 貴園・貴所の所在地をお答えください。(あてはまる番号を記入)

	選択肢	回答数	構成比
25	滋賀県	43	21.2%
26	京都府	127	62.6%
27	大阪府	27	13.3%
28	兵庫県	1	0.5%
29	奈良県	5	2.5%
	計	203	100.0%

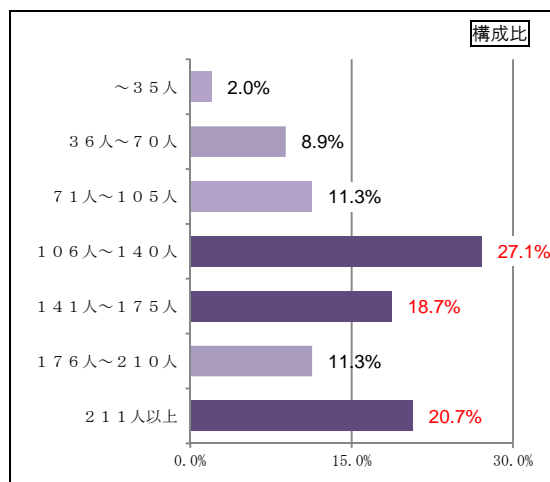


回答のあった選択肢のみ記載。

【所在地】問2において、回答のあった幼稚園・保育所等の所在地を質問した。回答のあった幼稚園・保育所等のうち、「26 京都府」が62.6%(127件)、「25 滋賀県」が21.2%(43件)、「27 大阪府」が13.3%(27件)となった。合わせると97.1%(197件)となった。

問3 貴園・貴所の現時点における園児・幼児数をお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

	選択肢	回答数	構成比
1	～35人	4	2.0%
2	36人～70人	18	8.9%
3	71人～105人	23	11.3%
4	<u>106人～140人</u>	<u>55</u>	<u>27.1%</u>
5	<u>141人～175人</u>	<u>38</u>	<u>18.7%</u>
6	176人～210人	23	11.3%
7	<u>211人以上</u>	<u>42</u>	<u>20.7%</u>
	計	203	100.0%



【園児・幼児数】問3において、回答のあった幼稚園・保育所等の園児・幼児数を質問した。回答のあった幼稚園・保育所等のうち、「4 106人～140人」が27.1%(55件)と最も多く、その後に20.7%(42件)の「7 211人以上」、18.7%(38件)の「5 141人～175人」が続いた。合わせると66.5%(135件)となった。

問4 貴園・貴所において勤務されている幼稚園教諭・保育士の人数をお答えください。
(該当する人数を記入)

◆幼稚園教諭（合計）

人 数		回答数	人数合計 (人数×回答数)
1	1人	3	3
26	34人	1	34
計		86	1,175

注. 人数の記載があった回答のみ記載。

◆幼稚園教諭（4年制大学卒）

人 数		回答数	人数合計 (人数×回答数)
1	1人	16	16
9	23人	1	23
計		71	238

注. 人数の記載があった回答のみ記載。

◆保育士（合計）

人 数		回答数	人数合計 (人数×回答数)
1	1人	2	2
35	40人	2	80
計		109	2,159

注. 人数の記載があった回答のみ記載。

◆保育士（4年制大学卒）

人 数		回答数	人数合計 (人数×回答数)
1	1人	24	24
9	12人	1	12
計		76	236

注. 人数の記載があった回答のみ記載。

認定こども園などの場合において、2つの資格を有し、両業務に従事する人数をお答えください。
なお、記載いただく人数は、上の幼稚園教諭・保育士の人数に含めず、外数でお答えください。

◆保育教諭（合計）

〔幼稚園教諭と保育士の資格を有し、両業務に従事する者〕

人 数		回答数	人数合計 (人数×回答数)
1	1人	1	1
20	44人	1	44
計		29	685

注. 人数の記載があった回答のみ記載。

◆保育教諭（4年制大学卒）

〔幼稚園教諭と保育士の資格を有し、両業務に従事する者〕

人 数		回答数	人数合計 (人数×回答数)
1	1人	8	8
8	9人	1	9
計		23	74

注. 人数の記載があった回答のみ記載。

【幼稚園教諭・保育士の人数】問4において、回答のあった幼稚園・保育所等に勤務されている幼稚園教諭・保育士の人数を質問した。その結果は上記集計表のとおりであるが、4年制大学卒以外の数値(全体-4年制大学卒)を算出し集計表を加工した(次頁の表1～表3)。なお、回答数については施設数と同一であり施設数と表記した。

表1－幼稚園教諭の勤務状況

勤務する施設	施設数	構成比
<u>4年制大学卒が勤務する施設</u>	<u>71</u>	<u>82.6%</u>
4年制大学卒が勤務しない施設	15	17.4%
計	86	100.0%

出身区分	人数	構成比
<u>4年制大学卒</u>	<u>238</u>	<u>20.3%</u>
4年制大学卒以外	937	79.7%
計	1,175	100.0%

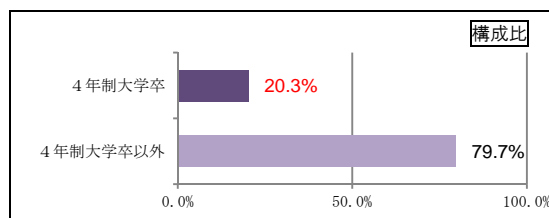
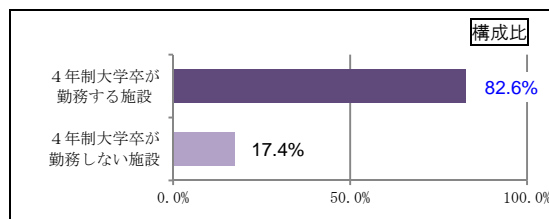


表2－保育士の勤務状況

勤務する施設	施設数	構成比
<u>4年制大学卒が勤務する施設</u>	<u>76</u>	<u>69.7%</u>
4年制大学卒が勤務しない施設	33	30.3%
計	109	100.0%

出身区分	人数	構成比
<u>4年制大学卒</u>	<u>236</u>	<u>10.9%</u>
4年制大学卒以外	1,923	89.1%
計	2,159	100.0%

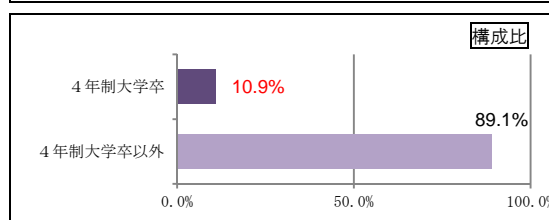
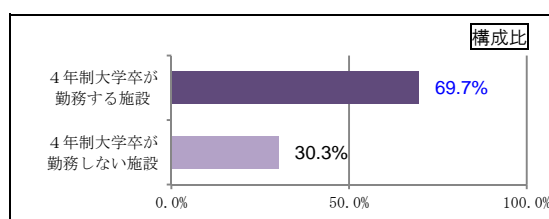


表3－保育教諭の勤務状況

勤務する施設	施設数	構成比
<u>4年制大学卒が勤務する施設</u>	<u>23</u>	<u>79.3%</u>
4年制大学卒が勤務しない施設	6	20.7%
計	29	100.0%

出身区分	人数	構成比
<u>4年制大学卒</u>	<u>74</u>	<u>10.8%</u>
4年制大学卒以外	611	89.2%
計	685	100.0%

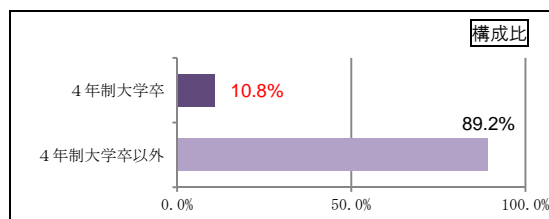
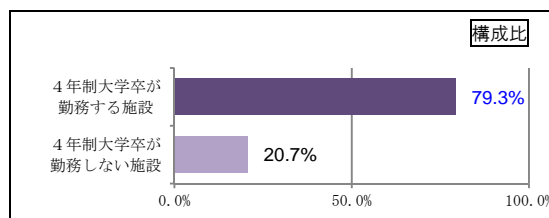


表1～表3より、4年制大学卒が勤務する施設数については、幼稚園教諭が82.6%(71箇所)、保育士が69.7%(76箇所)、保育教諭が79.3%(23箇所)となった。幼稚園教諭、保育士、保育教諭を問わず、4年制大学卒が勤務する施設数の構成比は4年制大学卒が勤務しない施設より高かった。

一方、勤務する4年制大学卒の人数については、幼稚園教諭が20.3%(238人)、保育士が10.9%(236人)、保育教諭が10.8%(74人)となった。幼稚園教諭、保育士、保育教諭を問わず、4年制大学卒の人数構成比は4年制大学卒以外の人数構成比より低かった。

問5 貴園・貴所において2016年4月に採用された新卒の幼稚園教諭・保育士の人数をお答えください。(該当する人数)

◆採用した幼稚園教諭（合計）

人 数		回答数	人数合計 (人数×回答数)
1	1人	22	22
7	9人	1	9
計		59	138

注. 人数の記載があった回答のみ記載。

◆採用した幼稚園教諭（4年制大学卒）

人 数		回答数	人数合計 (人数×回答数)
1	1人	13	13
4	4人	1	4
計		26	44

注. 人数の記載があった回答のみ記載。

◆採用した保育士（合計）

人 数		回答数	人数合計 (人数×回答数)
1	1人	19	19
6	19人	1	19
計		75	190

注. 人数の記載があった回答のみ記載。

◆採用した保育士（4年制大学卒）

人 数		回答数	人数合計 (人数×回答数)
1	1人	19	19
5	5人	1	5
計		26	39

注. 人数の記載があった回答のみ記載。

◆採用した保育教諭（合計）

〔幼稚園教諭と保育士の資格を有し、両業務に従事する者〕

人 数		回答数	人数合計 (人数×回答数)
1	1人	4	4
6	6人	2	12
計		23	75

注. 人数の記載があった回答のみ記載。

◆採用した保育教諭（4年制大学卒）

〔幼稚園教諭と保育士の資格を有し、両業務に従事する者〕

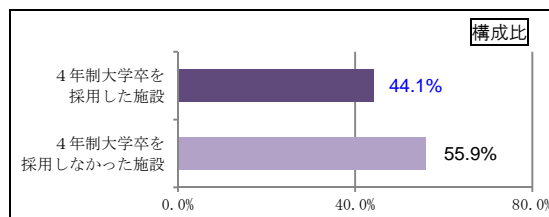
人 数		回答数	人数合計 (人数×回答数)
1	1人	9	9
3	3人	1	3
計		13	18

注. 人数の記載があった回答のみ記載。

【幼稚園教諭・保育士の採用人数】問5において、回答のあった幼稚園・保育所等で2016年4月に採用された幼稚園教諭・保育士の人数を質問した。その結果は上記集計表のとおりであるが、4年制大学卒以外の数値(全体-4年制大学卒)を算出し集計表を加工した(次頁の表4～表6)。なお、回答数は施設数と同一であり施設数と表記した。

表4－幼稚園教諭の採用状況

採用した施設	施設数	構成比
<u>4年制大学卒を採用した施設</u>	<u>26</u>	<u>44.1%</u>
4年制大学卒を採用しなかった施設	33	55.9%
計	59	100.0%



出身区分	人数	構成比
<u>4年制大学卒</u>	<u>44</u>	<u>31.9%</u>
4年制大学卒以外	94	68.1%
計	138	100.0%

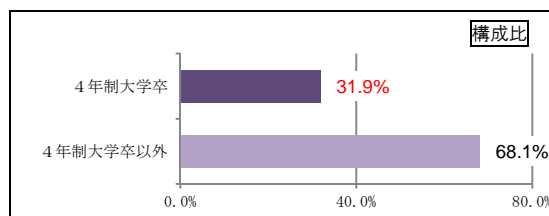
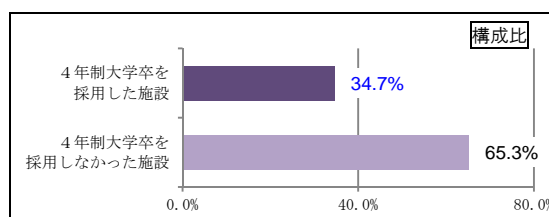


表5－保育士の採用状況

採用した施設	施設数	構成比
<u>4年制大学卒を採用した施設</u>	<u>26</u>	<u>34.7%</u>
4年制大学卒を採用しなかった施設	49	65.3%
計	75	100.0%



出身区分	人数	構成比
<u>4年制大学卒</u>	<u>39</u>	<u>20.5%</u>
4年制大学卒以外	151	79.5%
計	190	100.0%

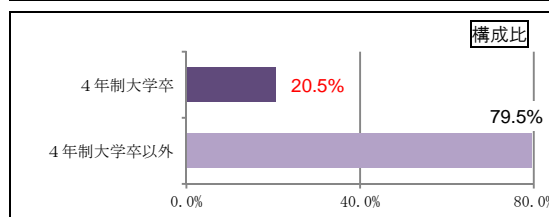
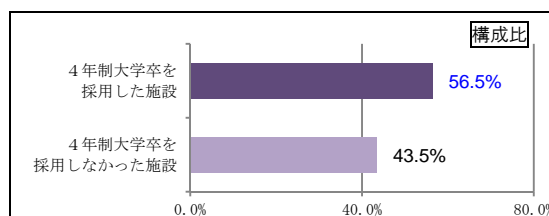


表6－保育教諭の採用状況

採用した施設	施設数	構成比
<u>4年制大学卒を採用した施設</u>	<u>13</u>	<u>56.5%</u>
4年制大学卒を採用しなかった施設	10	43.5%
計	23	100.0%



出身区分	人数	構成比
<u>4年制大学卒</u>	<u>18</u>	<u>24.0%</u>
4年制大学卒以外	57	76.0%
計	75	100.0%

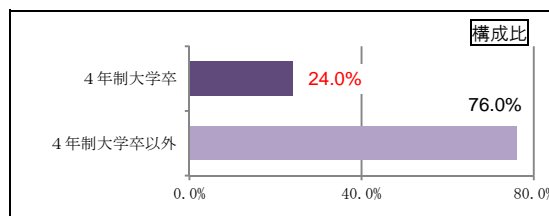


表4～表6より、4年制大学卒を採用した施設数については、幼稚園教諭が44.1%(26箇所)、保育士が34.7%(26箇所)、保育教諭が56.5%(13箇所)となった。4年制大学卒を採用した施設数が4年制大学卒を採用しなかった施設数を超えたのは保育教諭のみであった。

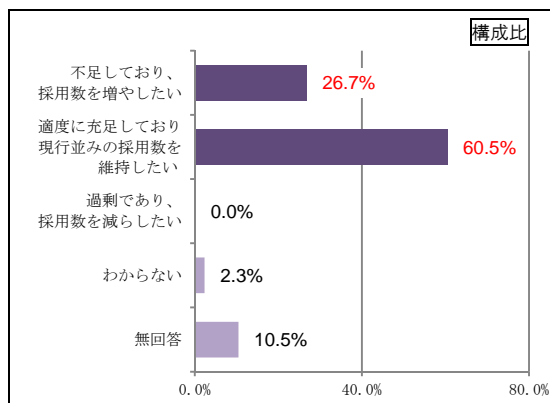
一方、採用した4年制大学卒の人数については、幼稚園教諭が31.9%(44人)、保育士が20.5%(39人)、保育教諭が24.0%(18人)となった。幼稚園教諭、保育士、保育教諭を問わず、4年制大学卒の人数は4年制大学卒以外の人数を下回った。

➡以下の問6は、問4で「各資格を保有して勤務する者」の人数を示した施設を対象に分析した。

問6 貴園・貴所における幼稚園教諭・保育士の今後の採用見通しについてお答えください。
(貴園・貴所で勤務される人材について、最もあてはまる番号をご記入ください。)

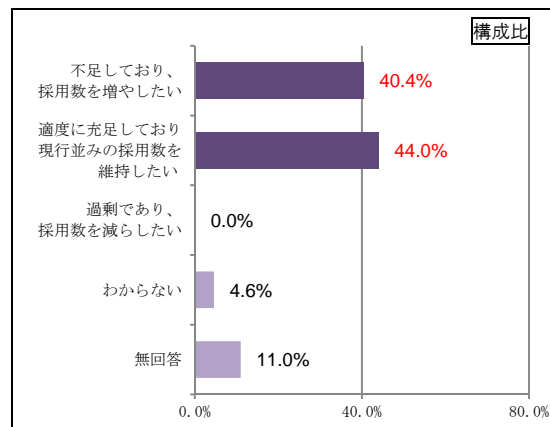
◆幼稚園教諭免許状の保有者

選択肢		回答数	構成比
1	<u>不足しており、採用数を増やしたい</u>	23	26.7%
2	<u>適度に充足しており現行並みの採用数を維持したい</u>	52	60.5%
3	過剰であり、採用数を減らしたい	0	0.0%
4	わからない	2	2.3%
	無回答	9	10.5%
	計	86	100.0%



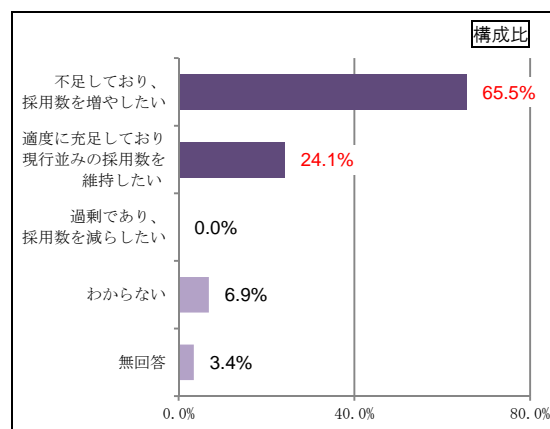
◆保育士資格の保有者

選択肢		回答数	構成比
1	<u>不足しており、採用数を増やしたい</u>	44	40.4%
2	<u>適度に充足しており現行並みの採用数を維持したい</u>	48	44.0%
3	過剰であり、採用数を減らしたい	0	0.0%
4	わからない	5	4.6%
	無回答	12	11.0%
	計	109	100.0%



◆幼稚園教諭免許状・保育士資格の両方の保有者

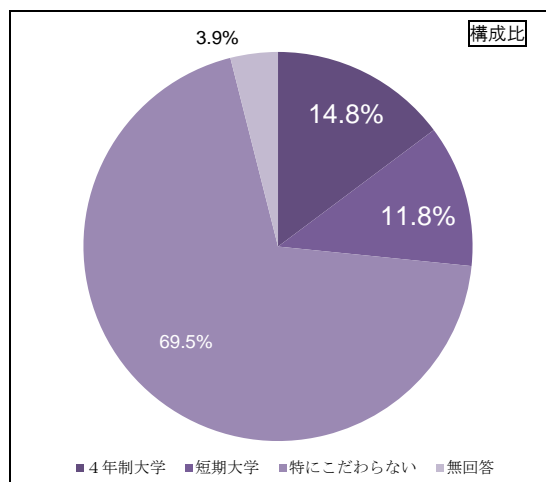
選択肢		回答数	構成比
1	<u>不足しており、採用数を増やしたい</u>	19	65.5%
2	<u>適度に充足しており現行並みの採用数を維持したい</u>	7	24.1%
3	過剰であり、採用数を減らしたい	0	0.0%
4	わからない	2	6.9%
	無回答	1	3.4%
	計	29	100.0%



【今後の採用見通し】 問6において、回答のあった幼稚園・保育所等に今後の採用見通しを質問した。「1 不足しており、採用者を増やしたい」と「2 適度に充足しており現行並みの採用数を維持したい」の回答を合わせると、幼稚園教諭免許状の保有者が 87.2% (26.7%+60.5%)、保育士資格の保有者が 84.4% (40.4%+44.0%)、幼稚園教諭免許状・保育士資格の両方の保有者が 89.6% (65.5%+24.1%)となり、いずれも高い数値を示した。

問7 貴園・貴所では、4年制大学、短期大学、保育専門学校のうち、今後いずれの卒業者を採用したいとお考えですか。(最もあてはまるもの1つに○印)

選択肢		回答数	構成比
1	<u>4年制大学</u>	30	14.8%
2	短期大学	24	11.8%
3	保育専門学校	0	0.0%
4	<u>特にこだわらない</u>	141	69.5%
	無回答	8	3.9%
	計	203	100.0%

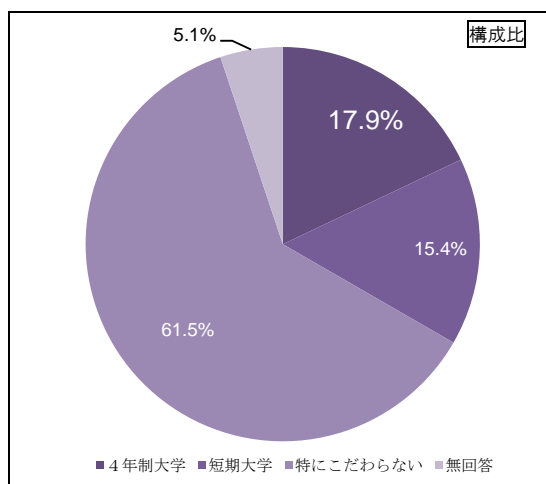


【採用意向の学校種別】 問7において、回答のあった幼稚園・保育所等が今後採用意向である学校種別を質問した。「4 特にこだわらない」が最も多く、69.5%(141件)であった。次いで、「1 4年制大学」の14.8%(30件)、「2 短期大学」の11.8%(24件)と続いた。

⇒問7の結果を幼稚園・保育所別にみた場合は、次の通りである。

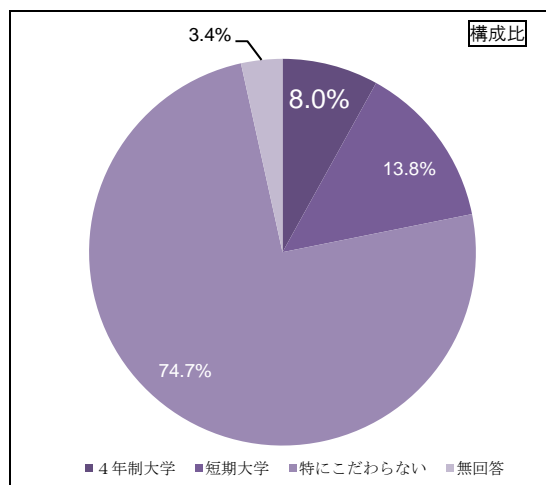
◆ 幼稚園

選択肢		回答数	構成比
1	<u>4年制大学</u>	14	17.9%
2	短期大学	12	15.4%
3	保育専門学校	0	0.0%
4	<u>特にこだわらない</u>	48	61.5%
	無回答	4	5.1%
	計	78	100.0%



◆ 保育所

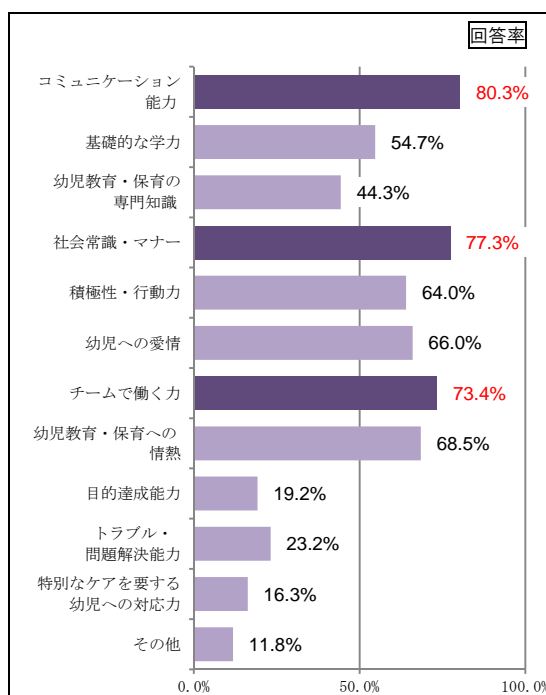
選択肢		回答数	構成比
1	<u>4年制大学</u>	7	8.0%
2	短期大学	12	13.8%
3	保育専門学校	0	0.0%
4	<u>特にこだわらない</u>	65	74.7%
	無回答	3	3.4%
	計	87	100.0%



問8 貴園・貴所では、新卒の幼稚園教諭・保育士を採用される際、重視する内容をお答えください。(あてはまるものすべてに○印)

	選択肢	回答数	回答率
1	<u>コミュニケーション能力</u>	163	<u>80.3%</u>
2	基礎的な学力	111	54.7%
3	幼児教育・保育の専門知識	90	44.3%
4	<u>社会常識・マナー</u>	<u>157</u>	<u>77.3%</u>
5	積極性・行動力	130	64.0%
6	幼児への愛情	134	66.0%
7	<u>チームで働く力</u>	<u>149</u>	<u>73.4%</u>
8	幼児教育・保育への情熱	139	68.5%
9	目的達成能力	39	19.2%
10	トラブル・問題解決能力	47	23.2%
11	特別なケアを要する幼児への対応力	33	16.3%
12	その他	24	11.8%

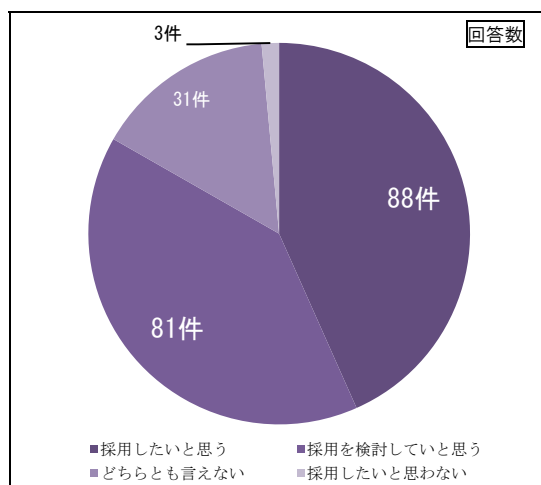
回答者数=203



【採用時に重視する内容】 問8において、回答のあった幼稚園・保育所等が採用時に重視する内容を質問した(複数回答可)。回答のあった幼稚園・保育所等の 80.3%(163件) が「1 コミュニケーション能力」を挙げ、最も多かった。その後に、「4 社会常識・マナー(77.3%)」、「7 チームで働く力(73.4%)」と続き、いずれも70%以上の回答率であった。

問9 大谷大学が設置構想中の教育学部教育学科(仮称)の幼児教育コース(仮称)を卒業した学生を採用したいと思われませんか。(あてはまるもの1つに○印)

選択肢		回答数	構成比
1	<u>採用したいと思う</u>	88	43.3%
2	<u>採用を検討したいと思う</u>	81	39.9%
3	どちらとも言えない	31	15.3%
4	採用したいと思わない	3	1.5%
計		203	100.0%

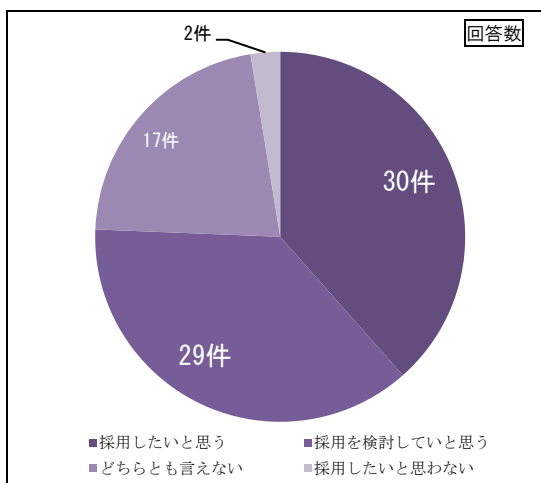


【採用意向】 問9において、回答のあった幼稚園・保育所等に教育学部教育学科(仮称)の幼児教育コース(仮称)を卒業した学生の採用意向を質問した。「1 採用したいと思う」が88件(43.3%)、「2 採用を検討したいと思う」も81件(39.9%)あり、合わせると169件(83.2%)となった。

⇒問9の結果を幼稚園・保育所別にみた場合は、次の通りである。

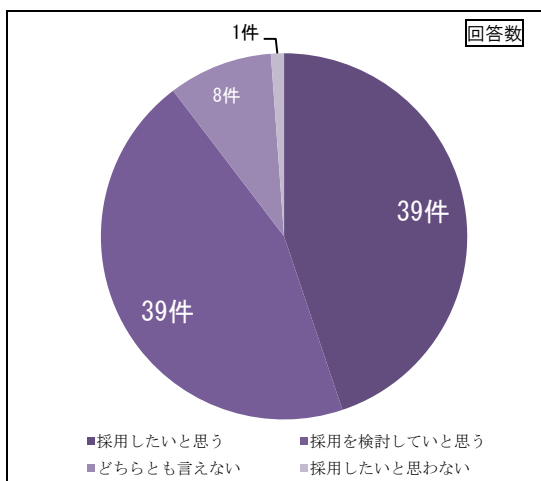
◆ 幼稚園

選択肢		回答数	構成比
1	<u>採用したいと思う</u>	30	38.5%
2	<u>採用を検討したいと思う</u>	29	37.2%
3	どちらとも言えない	17	21.8%
4	採用したいと思わない	2	2.6%
計		78	100.0%



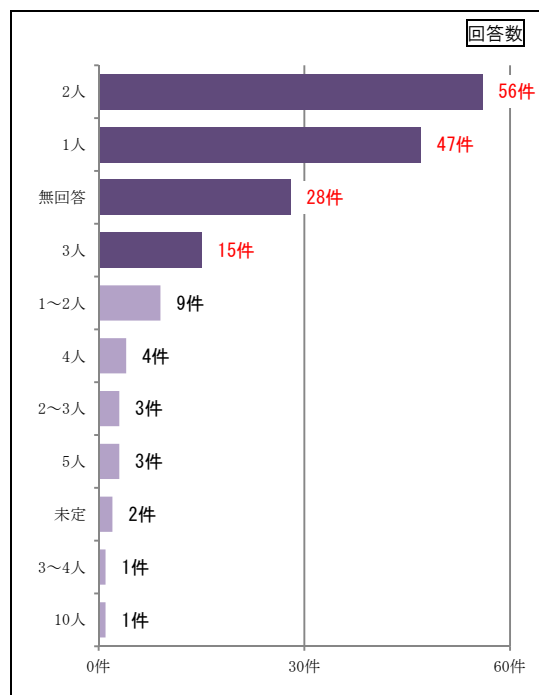
◆ 保育所

選択肢		回答数	構成比
1	<u>採用したいと思う</u>	39	44.8%
2	<u>採用を検討したいと思う</u>	39	44.8%
3	どちらとも言えない	8	9.2%
4	採用したいと思わない	1	1.1%
計		87	100.0%



問10 「問9」で「1. 採用したいと思う」「2. 採用を検討したいと思う」とお答えいただいた場合、ご回答ください。現時点で、採用可能と思われる人数は何人ですか。(人数を記入)

人 数		回答数	構成比
1	1人	47	27.8%
2	2人	56	33.1%
3	3人	15	8.9%
4	4人	4	2.4%
5	5人	3	1.8%
6	10人	1	0.6%
7	1～2人	9	5.3%
8	2～3人	3	1.8%
9	3～4人	1	0.6%
10	未定	2	1.2%
	無回答	28	16.6%
	計	169	100.0%

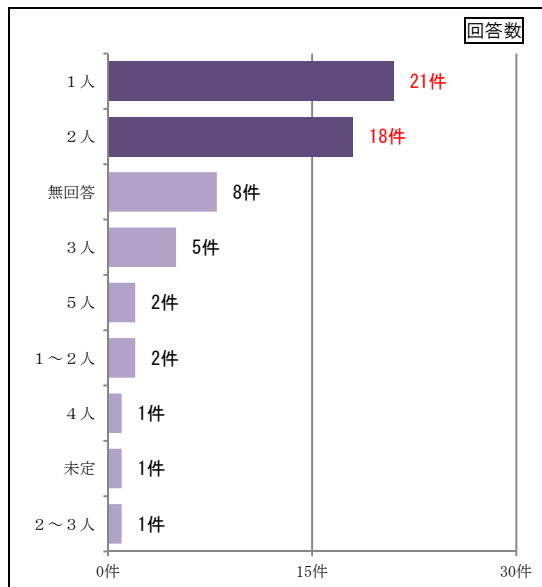


【採用可能な人数】問10において、問9で「1 採用したいと思う」「2 採用を検討したいと思う」と回答した幼稚園・保育所等(169件)に対して、現時点で採用可能と思われる人数を質問した「2人」の回答が56件(33.1%)と最も多く、続いて「1人」の回答が47件(27.8%)、無回答が28件(16.6%)、「3人」が15件(8.9%)となった。

⇒問10の結果を幼稚園・保育所別にみた場合は、次頁の通りである。

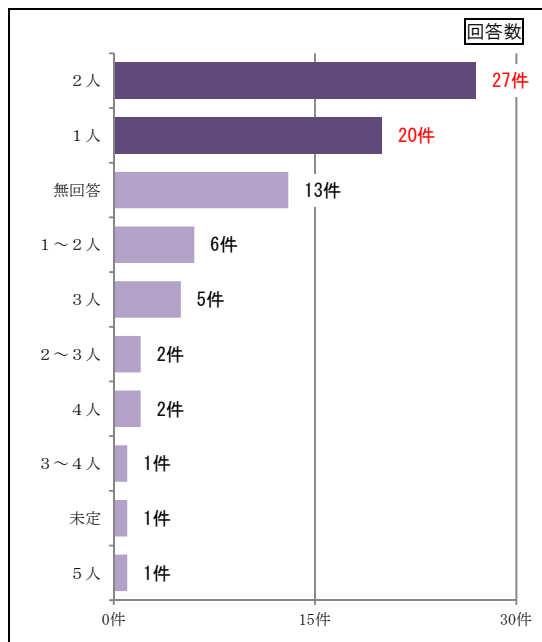
◆ 幼稚園

人 数		回答数	構成比
<u>1</u>	<u>1人</u>	<u>21</u>	<u>35.6%</u>
<u>2</u>	<u>2人</u>	<u>18</u>	<u>30.5%</u>
3	3人	5	8.5%
4	4人	1	1.7%
5	5人	2	3.4%
6	1～2人	2	3.4%
7	2～3人	1	1.7%
8	未定	1	1.7%
	無回答	8	13.6%
	計	59	100.0%



◆ 保育所

人 数		回答数	構成比
<u>1</u>	<u>1人</u>	<u>20</u>	<u>25.6%</u>
<u>2</u>	<u>2人</u>	<u>27</u>	<u>34.6%</u>
3	3人	5	6.4%
4	4人	2	2.6%
5	5人	1	1.3%
6	1～2人	6	7.7%
7	2～3人	2	2.6%
8	3～4人	1	1.3%
9	未定	1	1.3%
	無回答	13	16.7%
	計	78	100.0%



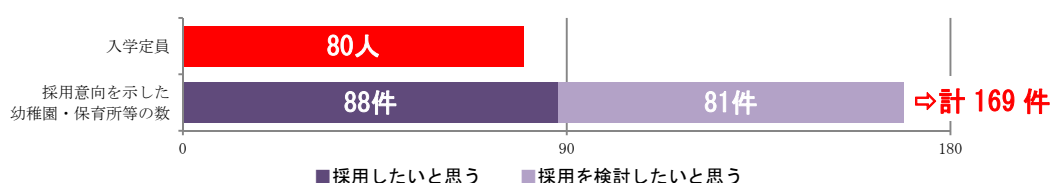
報告書 第3章 4.「設置構想についての
幼稚園・保育所等向けアンケート調査」記
述式設問に対する自由回答は記載を省略す
る。

5. 「設置構想についての幼稚園・保育所等向けアンケート調査」まとめ

本調査の回答結果により、教育学部教育学科幼児教育コース(仮称)の卒業予定者の就職における社会的なニーズを考察する。本調査は、対象とする幼稚園・保育所等の人事・採用担当者宛に、教育学部教育学科幼児教育コース(仮称)の卒業予定者に対する採用意向等を尋ねるアンケート用紙(匿名)を送付することにより実施し、203件の幼稚園・保育所等より回答を得た。

本調査の間9において、「1 採用したいと思う」の88件と「2 採用を検討したいと思う」の81件を合わせると、169件となった。教育学部教育学科幼児教育コース(仮称)が予定する入学定員は80人であり、採用意向を示した幼稚園・保育所等(169件)は教育学部教育学科幼児教育コース(仮称)の入学定員(80人)を大幅に上回っている。(図1参照)

図1 教育学部教育学科幼児教育コース(仮称)の卒業予定者に対して採用意向を示した幼稚園・保育所等の数



なお、本調査の間9において、「1 採用したいと思う」と「2 採用を検討したいと思う」を合わせた件数の施設別(内数)では、幼稚園教諭免許状の保有者の主たる就職先である幼稚園が59件(30件+29件)、保育士資格の保有者の主たる就職先である保育所が78件(39件+39件)となった。(図2・図3参照)

図2 教育学部教育学科幼児教育コース(仮称)の卒業予定者に対して採用意向を示した幼稚園の数

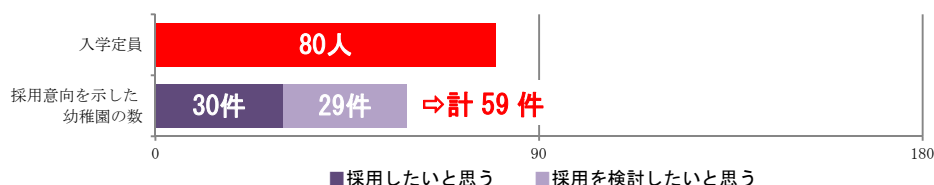
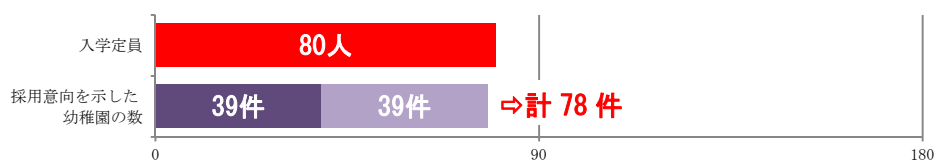
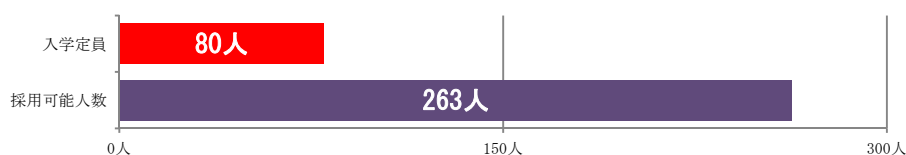


図3 教育学部教育学科幼児教育コース(仮称)の卒業予定者に対して採用意向を示した保育所の数



次に、本調査の間10において、間9で「1 採用したいと思う」「2 採用を検討したいと思う」と回答した幼稚園・保育所等(169件)に対して、現時点で採用可能と思われる人数を質問した。間10の回答結果(次頁表参照)を基に具体的な採用可能人数を算出した。その際、「1～2人」の回答を「1人」、「2～3人」の回答を「2人」、「3～4人」の回答を「3人」とした。また、「未定」、「無回答」は最低でも「1人」が見込まれるが集計外とし、明確な記載のあった数値のみで算出した。具体的な採用人数についての算出結果は次頁に記載しているが、採用可能人数は263人となった。この数値は教育学部教育学科幼児教育コース(仮称)の入学定員(80人)を183人(263人-80人)上回っている。(図4参照)

図4 教育学部教育学科幼児教育コース(仮称)の卒業予定者に対して採用意向を示した幼稚園・保育所等の採用可能人数



同様の方法で、施設別の採用可能人数(内数)を算出した結果、幼稚園教諭免許状の保有者の主たる就職先である幼稚園の採用可能人数が90人、保育士資格の保有者の主たる就職先である保育所の採用可能人数が115人となった。(具体的な算出結果は次頁に記載)

よって、教育学部教育学科幼児教育コース(仮称)の入学定員(80人)については、幼稚園の採用可能人数のみで10人(90人-80人)上回り、保育所の採用可能人数のみで35人(115人-80人)上回っている。(図5・図6参照)

図5 教育学部教育学科幼児教育コース(仮称)の卒業予定者に対して採用意向を示した幼稚園の採用可能人数

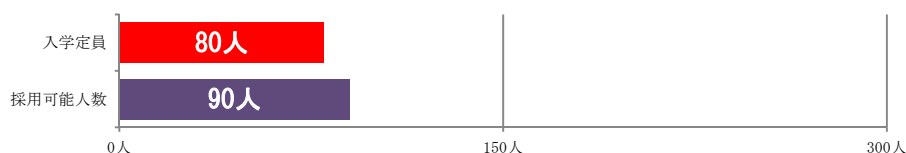
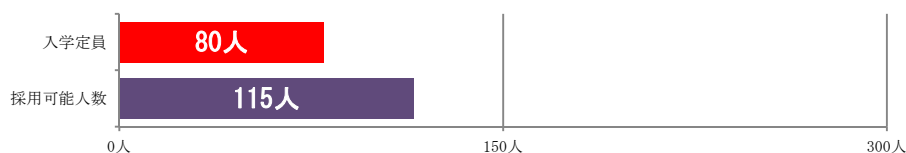


図6 教育学部教育学科幼児教育コース(仮称)の卒業予定者に対して採用意向を示した保育所の採用可能人数



以上により、教育学部教育学科幼児教育コース(仮称)の卒業予定者に対する幼稚園・保育所等からのニーズは高く、就職先についても十分に確保されていることが明確に示された。

問 10 における回答結果(表のみ抜粋) [再掲]

人 数		回答数	構成比
1	1人	47	27.8%
2	2人	56	33.1%
3	3人	15	8.9%
4	4人	4	2.4%
5	5人	3	1.8%
6	10人	1	0.6%
7	1～2人	9	5.3%
8	2～3人	3	1.8%
9	3～4人	1	0.6%
10	未定	2	1.2%
	無回答	28	16.6%
	計	169	100.0%

～具体的な採用可能人数の算出結果～

1人	→	1人 × 47件	=	47人
2人	→	2人 × 56件	=	112人
3人	→	3人 × 15件	=	45人
4人	→	4人 × 4件	=	16人
5人	→	5人 × 3件	=	15人
10人	→	10人 × 1件	=	10人
1～2人	→	1人 × 9件	=	9人
2～3人	→	2人 × 3件	=	6人
3～4人	→	3人 × 1件	=	3人
未定	→	集計外		
無回答	→	集計外		
合計				=263人

◆ 幼稚園

人 数		回答数	構成比
1	1人	21	35.6%
2	2人	18	30.5%
3	3人	5	8.5%
4	4人	1	1.7%
5	5人	2	3.4%
6	1～2人	2	3.4%
7	2～3人	1	1.7%
8	未定	1	1.7%
	無回答	8	13.6%
	計	59	100.0%

1人	→	1人 × 21件	=	21人
2人	→	2人 × 18件	=	36人
3人	→	3人 × 5件	=	15人
4人	→	4人 × 1件	=	4人
5人	→	5人 × 2件	=	10人
1～2人	→	1人 × 2件	=	2人
2～3人	→	2人 × 1件	=	2人
未定	→	集計外		
無回答	→	集計外		
合計				= 90人

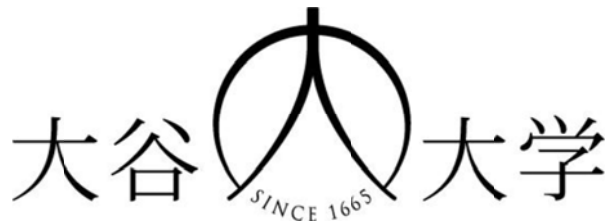
◆ 保育所

人 数		回答数	構成比
1	1人	20	25.6%
2	2人	27	34.6%
3	3人	5	6.4%
4	4人	2	2.6%
5	5人	1	1.3%
6	1～2人	6	7.7%
7	2～3人	2	2.6%
8	3～4人	1	1.3%
9	未定	1	1.3%
	無回答	13	16.7%
	計	78	100.0%

1人	→	1人 × 20件	=	20人
2人	→	2人 × 27件	=	54人
3人	→	3人 × 5件	=	15人
4人	→	4人 × 2件	=	8人
5人	→	5人 × 1件	=	5人
1～2人	→	1人 × 6件	=	6人
2～3人	→	2人 × 2件	=	4人
3～4人	→	3人 × 1件	=	3人
未定	→	集計外		
無回答	→	集計外		
合計				=115人

【添付①】

「社会学部・教育学部 設置構想についての
高校生アンケート調査」



社会学部

コミュニティデザイン学科(仮称)
現代社会学科(仮称)

教育学部

教育学科(仮称)

2018年4月開設に向け
～設置構想中～

※学部学科名称は仮称のため、変更する場合があります。

設置構想についての高校生アンケート調査

(対象：2016年度現在、高校2年生のみなさん)

2018年4月、大谷大学(京都府京都市北区小山上総町)は文学部の社会学科(定員120人)と教育・心理学科(定員100人)を改組し、社会学部コミュニティデザイン学科(仮称・定員100人)、社会学部現代社会学科(仮称・定員120人)および教育学部教育学科(定員130人)の設置を構想しています。

このアンケート調査(無記名方式)を通して、2018年に大学進学を迎える現在高校2年生のみなさんの進路についての率直なお考えをお聞きし、構想内容に少しでも反映させたいと考えています。

ご回答いただいたみなさんから寄せられた情報は、大谷大学の新設学科構想に係る統計資料としてのみ活用するものであり、個人を特定することは一切ありません。ご協力の程、よろしくお願ひします。

※このアンケート調査は、大谷大学から委託された第三者機関(株式会社紀伊國屋書店、株式会社高等教育総合研究所)が実施しています。

問1 【性別】性別をお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

1. 男性 2. 女性

問2 【居住地】居住地(寮生等の場合は出身地)をお答えください。(あてはまる番号を記入)

番号記入欄

- | | | | | | | | |
|----------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|----------|
| 【北海道・東北】 | 1. 北海道 | 2. 青森県 | 3. 岩手県 | 4. 宮城県 | 5. 秋田県 | 6. 山形県 | 7. 福島県 |
| 【関東】 | 8. 茨城県 | 9. 栃木県 | 10. 群馬県 | 11. 埼玉県 | 12. 千葉県 | 13. 東京都 | 14. 神奈川県 |
| 【北陸・甲信越】 | 15. 新潟県 | 16. 富山県 | 17. 石川県 | 18. 福井県 | 19. 山梨県 | 20. 長野県 | |
| 【東海】 | 21. 岐阜県 | 22. 静岡県 | 23. 愛知県 | 24. 三重県 | | | |
| 【近畿】 | 25. 滋賀県 | 26. 京都府 | 27. 大阪府 | 28. 兵庫県 | 29. 奈良県 | 30. 和歌山県 | |
| 【中国】 | 31. 鳥取県 | 32. 島根県 | 33. 岡山県 | 34. 広島県 | 35. 山口県 | | |
| 【四国】 | 36. 徳島県 | 37. 香川県 | 38. 愛媛県 | 39. 高知県 | | | |
| 【九州・沖縄】 | 40. 福岡県 | 41. 佐賀県 | 42. 長崎県 | 43. 熊本県 | 44. 大分県 | 45. 宮崎県 | 46. 鹿児島県 |
| | 47. 沖縄県 | | | | | | |

問3 【卒業後の進路】高校卒業後の希望進路をお答えください。(あてはまるものすべてに○印)

1. 大学 2. 短期大学 3. 専門学校 4. 就職
5. その他()

問4 【志望分野】興味・関心のある学問分野をお答えください。(あてはまるものすべてに○印)

- | | | | |
|-------------|---------------------------------|-------------|---------------|
| 1. 文学・歴史・心理 | 2. 経済・経営・商学 | 3. 法学・政治 | 4. 社会・社会福祉・観光 |
| 5. 外国語・国際関係 | 6. 教育・保育 | 7. 理学・工学・情報 | 8. 農・畜産・水産 |
| 9. 医学・歯学・薬学 | 10. 看護・医療技術 | 11. 栄養・家政 | 12. スポーツ・健康科学 |
| 13. 芸術 | 14. その他() | | |

問5 【希望進路】将来、希望する進路をお答えください。(あてはまるものすべてに○印)

1. 一般企業 2. 公務員・団体職員 3. 教員 4. 資格をいかす職業
5. 研究・技術職 6. 起業・会社経営 7. 医療・福祉施設 8. その他()

以下は3・4ページの「社会学部(仮称)」および「教育学部(仮称)」の概要をご覧のうえでお答えください。

問6 大谷大学が設置構想中の社会学部(仮称)または教育学部(仮称)を受験したいと思いますか。
(あてはまるもの1つに○印)

1. 社会学部(仮称)を受験したい → **問7**、**問8**にお答えください。
2. 教育学部(仮称)を受験したい → **問9**、**問10**にお答えください。
3. 社会学部(仮称)と教育学部(仮称)を受験したい → **問11**にお答えください。
4. 社会学部(仮称)、教育学部(仮称)とも受験しない → **問12**、**問13**にお答えください。

問7・問8は問6で「1.社会学部(仮称)を受験したい」を選択された方がお答えください。

問7 社会学部(仮称)を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。
(あてはまるもの1つに○印)

1. 入学したい
2. 併願大学の結果によっては入学したい

問7-2 問7で2を選択された方は併願先をお答えください。
(あてはまるものすべてに○印)

1. 他大学の社会学部
2. 他大学の社会学部**以外**の学部
3. 大谷大学文学部
4. その他 ()

問8 社会学部(仮称)で「入学したい」「併願大学の結果によっては入学したい」と思っている学科をお答えください。
(あてはまるもの1つに○印)

1. コミュニティデザイン学科(仮称)
2. 現代社会学科(仮称)

以下は大谷大学が2018年に設置構想中の「社会学部(仮称)の概要」です。

大谷大学 社会学部 (仮称) 設置構想中

社会と、地域と、つながる人物を育成します。

学部学科の概要

開設時期 2018年4月(予定)
 開設場所 京都府京都市北区小山上総町
 設置学科 **コミュニティデザイン学科**(入学定員100人) **現代社会学科**(入学定員120人)
 修業年限 4年
 取得学位 学士(社会学)
 養成する人材 **コミュニティデザイン学科** 演習と実習を連動させたプロジェクト型学習に取り組み、人と人をつなぎ、活力のある地域(コミュニティ)を創造(デザイン)していくことができる人物を養成します。
現代社会学科 社会学的考察力、調査分析力等を養い、社会現象を的確に捉え、社会と人の関係や問題と向き合うことができる人物を養成します。

学部学科の特色

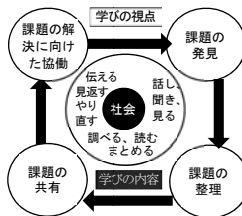
～学びの特色～



社会や地域とつながる学びの活動拠点「コミュ・ラボ(地域連携室)」。大学を飛び出して、地域や各機関の皆さんとともに考え、アクションを起こしていく活動=「プロジェクト」を展開していきます。

- * 京都・祇園祭ゴミゼロ大作戦への参加
- * 中川区の暮らし再発見プロジェクト
- * 京都府北部福祉フィールドワーク

～学びのサイクル～



テーマについて、「話し、聞き、見る」「調べる、読む、まとめる」「伝える、見返す、やり直す」のプロセスを経験します。そのなかで、課題の「発見」「整理」「共有」「解決に向けた協働」のサイクルを実践し、課題解決力を養います。

卒業後の進路

コミュニティデザイン学科

地域政策学コース/社会福祉学コース

地域におけるさまざまな課題に向きあい、まちづくりや福祉の相談・援助など、実践的な手法を学びながら解決の方向を見出していきます。

- ポイント01** 大学を出て、地域を訪れ、課題を探し、現場主義の学び。
- ポイント02** 演習(ゼミ)を中心とする、プロジェクト型学習。
- ポイント03** 人と会う、聞く、話す、実践力が身につく4年間。

現代社会学科

公共社会/人間関係/現代文化

学生の興味・関心のある、あらゆることが学びの対象です。自由なテーマ設定のもと、社会学の専門的なものの見方、フィールドワーク、社会調査、分析方法を学んでいきます。

- ポイント01** 幅広いテーマを、自由かつ柔軟に探究する学び。
- ポイント02** 演習(ゼミ)や、プロジェクト型研究などのアクティブ・ラーニング。
- ポイント03** 現代社会に求められる、調査・分析力が身につく4年間。

～卒業後の進路～

コミュニティデザイン学科

- 国家公務員、地方公務員、■ 観光、販売、銀行、社会的起業家
- NPO、教育、医療、福祉、公共交通、通信などの公共団体

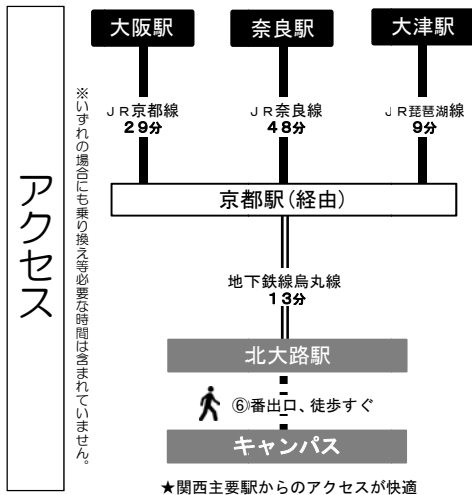
現代社会学科

- 報道、出版、販売、サービス、観光、銀行など
- 国家公務員、地方公務員 ■ 自営業、起業家

初年度学費 他大学との比較

大学名学部 (所在地)	学費	(学費の内訳)	
		入学金	授業料等
大谷大学社会学部 (京都府京都市)	1,190,000円	250,000円	940,000円
立命館大学 産業社会学部 (京都府京都市)	1,271,400円	300,000円	971,400円
佛教大学社会学部 (京都府京都市)	1,270,000円	170,000円	1,100,000円
追手門大学社会学部 (大阪府茨木市)	1,165,000円	260,000円	905,000円
神戸学院大学 現代社会学部 (兵庫県神戸市)	1,300,000円	300,000円	1,000,000円

※学費は2017年度実績(大谷大学のみ2018年度予定)。
 ※立命館大学産業社会学部の学費は子ども社会専攻を除いた実績。



アクセス

※いずれの場合にも乗り換え等必要な時間は含まれていません。

★関西主要駅からのアクセスが快適

上記は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

以下は大谷大学が2018年に設置構想中の「教育学部教育学科(仮称)の概要」です。

大谷大学 教育学部教育学科 (仮称) **設置構想中**

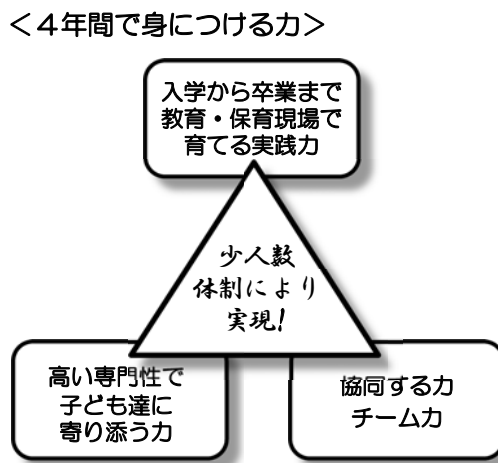
少人数体制で、確実な実践力を身につけます。

学部学科の概要

開設時期 2018年4月(予定)
 開設場所 京都府京都市北区小山上総町
 修業年限 4年
 入学定員 130人
 (初等教育コース:50人 幼児教育コース:80人)

取得学位 学士(教育学)
 養成する人材 **初等教育コース** 子どものところに寄り添える教員になることを目標に、授業を行う基礎力だけでなく、運動会などの特別活動を実践する力も養成します。
幼児教育コース 幼稚園や保育園、認定こども園はもちろん、児童養護施設など、多様な領域で活躍できる保育者を養成します。

学部学科の特色



初等教育コース

取得できる資格 ※課程認定申請予定 小学校教諭一種免許状

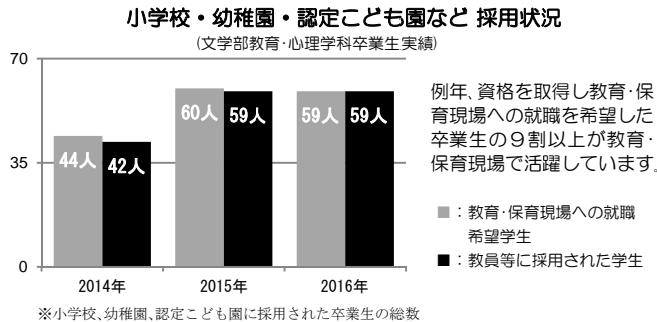
卒業後の主な進路 小学校、公務員、教育にたずさわる一般企業

幼児教育コース

取得できる資格 ※課程認定申請予定 幼稚園教諭一種免許状 保育士 保育心理士(二種)

卒業後の主な進路 幼稚園、保育所、認定こども園、児童養護施設、乳児院、児童福祉施設、公務員、教育にたずさわる一般企業

卒業後の進路



2016年3月卒業生 教員等採用実績

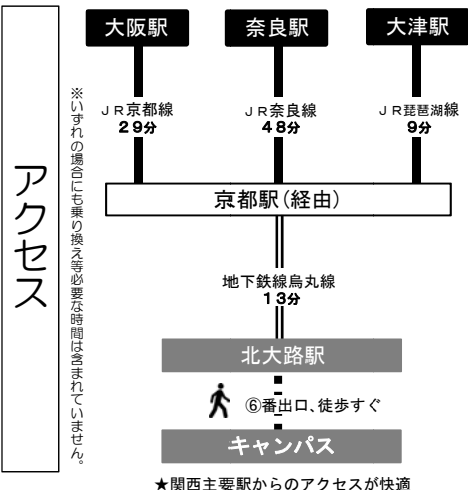
進路	人数
小学校	47人
幼稚園	7人
認定こども園	3人
その他	2人

※講師を含む。
 ※新たに開設される幼児教育コースについては、短期大学の幼稚園教諭・保育士養成の実績(ほぼ100%)をもとに、高い就職率を実現します。

初年度学費 他大学との比較

大学名学部 (所在地)	学費	(学費の内訳)	
		入学金	授業料等
大谷大学教育学部 (京都府京都市)	1,290,000円	250,000円	1,040,000円
京都橘大学 人間発達学部 (京都府京都市)	1,326,000円	200,000円	1,126,000円
佛教大学教育学部 (京都府京都市)	1,320,000円	170,000円	1,150,000円
大阪成蹊大学 教育学部 (大阪府大阪市)	1,410,000円	250,000円	1,160,000円
大和大学教育学部 (大阪府吹田市)	1,360,000円	180,000円	1,180,000円

※学費は2017年度実績(大谷大学のみ2018年度予定)。
 ※京都橘大学人間発達学部の学費は児童教育学部の実績。



上記は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

問9・問10は問6で「2.教育学部(仮称)を受験したい」を選択された方がお答えください。

問9 教育学部(仮称)を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。
(あてはまるもの1つに○印)

1. 入学したい
2. 併願大学の結果によっては入学したい

問9-2 問9で2を選択された方は併願先をお答えください。
(あてはまるものすべてに○印)

1. 他大学の教育学部
2. 他大学の教育学部**以外**の学部
3. 大谷大学文学部
4. その他 ()

問10 教育学部(仮称)で「入学したい」「併願大学の結果によっては入学したい」と思っている学科-コースをお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

1. 教育学科-初等教育コース(仮称)
2. 教育学科-幼児教育コース(仮称)

問11は問6で「3.社会学部(仮称)と教育学部(仮称)を受験したい」を選択された方がお答えください。

問11 受験し合格した場合、入学したいと思う学部・学科をお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

1. 社会学部 コミュニティデザイン学科(仮称)
2. 社会学部 現代社会学科(仮称)
3. 教育学部 教育学科-初等教育コース(仮称)
4. 教育学部 教育学科-幼児教育コース(仮称)
5. 他大学社会学系統の学部・学科
6. 他大学教育学系統の学部・学科
7. その他 ()

以下の問12・問13は、問6で「4.社会学部(仮称)、教育学部(仮称)とも受験しない」を選択された方がお答えください

問12 「社会学部(仮称)、教育学部(仮称)とも受験しない」と回答された理由をお答えください。
(あてはまるものすべてに○印)

1. 構想内容に魅力を感じないから
2. 興味・関心のある学問分野ではないから
3. 興味・関心のある学問分野であるが、他大学への進学を目指しているから
4. 自宅から通学が不便だから
5. もっと詳しい情報を得た上で検討したいから
6. 学費が高いから
7. 大学進学はしないから (短期大学・専門学校への進学や就職を希望)
8. その他

()

問13 あなたは現時点で大谷大学文学部を受験したいと思っていますか。(あてはまるもの1つに○印)

1. 受験したい
2. 受験しない

質問は以上です。ありがとうございました。

【添付②】

「教育学部 設置構想についての
教育・学習支援関関連の事業所等向けアンケート調査」

設置構想についての人材需要アンケート調査

【教育・学習支援業関連の事業所等】

2018年4月、大谷大学(京都府京都市北区小山上総町)は文学部教育・心理学科(定員100人)を改組し、教育学部教育学科(仮称・定員130人)の設置を構想しています。

本学では教育・学習支援関連の事業所等の皆様から率直なご意見を賜ることで、より一層、教育・保育に貢献する人材輩出を行っていきたくと考えております。ご多忙の折に、大変恐れ入りますが、本アンケートのご協力を謹んでお願い申し上げます。

なお、ご回答いただいた皆様から寄せられた情報は、大谷大学の設置学部学科構想に係る統計資料としてのみ活用するものであり、個人を特定することは一切ありません。

※このアンケート調査は、大谷大学から委託された第三者機関(株式会社紀伊國屋書店、株式会社高等教育総合研究所)が実施しています。

問1 業務内容についてお答えください。(最もあてはまるもの1つに○印)

- | | | |
|---------------|---------------------------|--------------|
| 1. 学習塾等 | 2. 通信教育・オンライン学習 | 3. 教科書・参考書出版 |
| 4. 学習教材の開発・販売 | 5. 教養・技能関連教室(書道・音楽・スポーツ等) | |
| 6. その他() | | |

問2 所在地(本社・主たる事業所等)をお答えください。(あてはまる番号を記入)

番号記入欄

- | | | | | | | | |
|----------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|----------|
| 【北海道・東北】 | 1. 北海道 | 2. 青森県 | 3. 岩手県 | 4. 宮城県 | 5. 秋田県 | 6. 山形県 | 7. 福島県 |
| 【関東】 | 8. 茨城県 | 9. 栃木県 | 10. 群馬県 | 11. 埼玉県 | 12. 千葉県 | 13. 東京都 | 14. 神奈川県 |
| 【北陸・甲信越】 | 15. 新潟県 | 16. 富山県 | 17. 石川県 | 18. 福井県 | 19. 山梨県 | 20. 長野県 | |
| 【東海】 | 21. 岐阜県 | 22. 静岡県 | 23. 愛知県 | 24. 三重県 | | | |
| 【近畿】 | 25. 滋賀県 | 26. 京都府 | 27. 大阪府 | 28. 兵庫県 | 29. 奈良県 | 30. 和歌山県 | |
| 【中国】 | 31. 鳥取県 | 32. 島根県 | 33. 岡山県 | 34. 広島県 | 35. 山口県 | | |
| 【四国】 | 36. 徳島県 | 37. 香川県 | 38. 愛媛県 | 39. 高知県 | | | |
| 【九州・沖縄】 | 40. 福岡県 | 41. 佐賀県 | 42. 長崎県 | 43. 熊本県 | 44. 大分県 | 45. 宮崎県 | 46. 鹿児島県 |
| | 47. 沖縄県 | | | | | | |

問3 従業員規模をお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

- | | | |
|------------|-----------|-----------|
| 1. 100人未満 | 2. 100人以上 | 3. 500人以上 |
| 4. 1000人以上 | | |

問4 従業員の方で「小学校教諭一種免許状」を保有している方の人数をお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

- | | | |
|----------|----------------------------|----------|
| 1. 5人未満 | 2. 5人以上 | 3. 10人以上 |
| 4. 15人以上 | 5. 20人以上 | 6. 25人以上 |
| 7. 30人以上 | 8. 0人(小学校教諭一種免許状の保有者はいません) | |

問5 「小学校教諭一種免許状」の保有者の担当業務をお答えください。
(あてはまるものすべてに○印)

- | | | |
|-------------------------------|-----------|-----------|
| 1. 学習塾等の講師 | 2. 通信添削 | 3. 教科書等開発 |
| 4. 学習教材の開発 | 5. その他() | |
| 6. ありません(小学校教諭一種免許状の保有者はいません) | | |

問6 人材採用時、「小学校教諭一種免許状」の保有者をどのように評価しているのかお答えください。
(あてはまるもの1つに○印)

1. すべての採用者に必須としている
2. 一部採用者に必須としている
3. 必須ではないが評価する
4. 特に評価しない
5. わからない

問7 2016年4月に採用した新卒者で「小学校教諭一種免許状」を保有している方の人数をお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

- | | | |
|---------|---------|----------|
| 1. 5人未満 | 2. 5人以上 | 3. 10人以上 |
|---------|---------|----------|

問8 新卒者を採用する際に、求める能力等をお答えください。(あてはまるものすべてに○印)

- | | | |
|----------------|-------------------|----------------|
| 1. コミュニケーション能力 | 2. 基礎的な学力 | 3. 専攻学問の専門的な知識 |
| 4. 語学力 | 5. 考え抜く力 | 6. 前に踏み出す力 |
| 7. 目的達成志向 | 8. 適応力 | 9. インターンシップ経験 |
| 10. ボランティア経験 | 11. 忍耐力 | 12. 理解力 |
| 13. 論理力 | 14. 取得資格・免許(見込含む) | |

以下は、「教育学部教育学科(仮称)の概要」をご覧の上でお答えください。

問9 大谷大学が設置構想中の教育学部教育学科(仮称)の初等教育コース(仮称)を卒業した学生を採用したいと思われますか。(あてはまるもの1つに○印)

1. 採用したいと思う
2. 採用を検討したいと思う
3. どちらとも言えない
4. 採用したいと思わない

問10 「問9」で「1. 採用したいと思う」「2. 採用を検討したいと思う」とお答えいただいた場合、ご回答ください。現時点で、採用可能と思われる人数は何人ですか。(人数を記入)

	人
--	---

問11 大谷大学が設置構想中の教育学部教育学科(仮称)に対して、期待される点や要望がありましたらご自由にお書きください。

質問は以上となります。ご協力いただきありがとうございました。

以下は大谷大学が2018年に設置構想中の「教育学部教育学科(仮称)の概要」です。

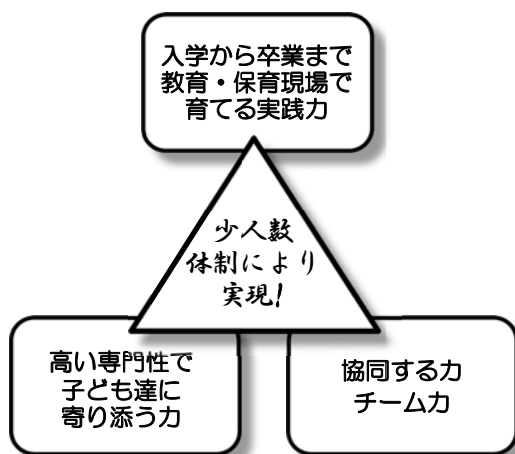
大谷大学 教育学部教育学科 (仮称) **設置構想中**

少人数体制で、確実な実践力を身につけます。

学部学科の概要

開設時期 2018年4月(予定)
 開設場所 京都府京都市北区小山上総町
 修業年限 4年
 入学定員 130人
 (初等教育コース:50人 幼児教育コース:80人)
 取得学位 学士(教育学)
 養成する人材 **初等教育コース** 子どものところに寄り添える教員になることを目標に、授業を行う基礎力とともに、運動会などの特別活動を実践する力も養成します。
幼児教育コース 幼稚園や保育園、認定こども園はもちろん、児童養護施設など、多様な領域で活躍できる保育者を養成します。

～4年間で身につける力～



初等教育コース

取得できる資格 (課程認定申請予定)

小学校教諭一種免許状

卒業後の主な進路

小学校、公務員
教育にたずさわる一般企業

幼児教育コース

取得できる資格 (課程認定申請予定)

幼稚園教諭一種免許状、保育士
保育心理士(二種)

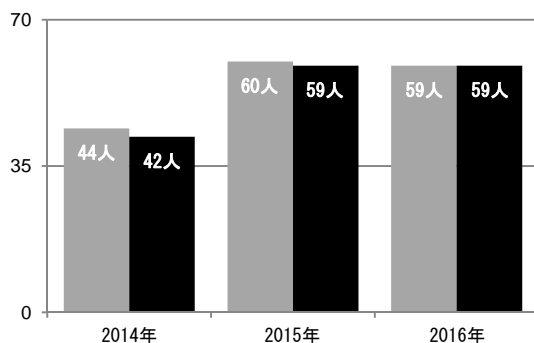
卒業後の主な進路

幼稚園、保育所、認定こども園
児童養護施設、乳児院、児童福祉施設
公務員、教育にたずさわる一般企業

学部学科の特色 及び 卒業後の進路

小学校・幼稚園・認定こども園など 採用状況

(文学部教育・心理学科卒業生実績)



※小学校、幼稚園、認定こども園に採用された卒業生の総数
 ■：教育・保育現場への就職希望学生
 ■：教員等に採用された学生

例年、資格を取得し教育・保育現場への就職を希望した卒業生の9割以上が教育・保育現場で活躍しています。

教員等採用実績

(2016年3月卒業生)

進路	人数
小学校	47人
幼稚園	7人
認定こども園	3人
その他	2人

※講師を含む。

※新たに開設される幼児教育コースについては、短期大学の幼稚園教諭・保育士養成の実績(ほぼ100%)をもとに、高い就職率を実現します。

上記は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

【添付③】

「教育学部 設置構想についての
幼稚園・保育所等向けアンケート調査」

設置構想についての人材需要アンケート調査【幼稚園・保育所等】

2018年4月、大谷大学(京都府京都市北区小山上総町)は文学部教育・心理学科(定員100人)を改組し、教育学部教育学科(仮称・定員130人)の設置を構想しています。

本学では幼稚園・保育所等の皆様から率直なご意見を賜ることで、より一層、教育・保育に貢献しうる人材輩出を行っていきたくと考えております。ご多忙の折に、大変恐れ入りますが、本アンケートのご協力を謹んでお願い申し上げます。

なお、ご回答いただいた皆様から寄せられた情報は、大谷大学の施設学部学科構想に係る統計資料としてのみ活用するものであり、個人を特定することは一切ありません。

※このアンケート調査は、大谷大学から委託された第三者機関(株式会社紀伊國屋書店、株式会社高等教育総合研究所)が実施しています。

問1 貴園・貴所についてお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

- | | | |
|------------------|-----------|--------|
| 1. 幼稚園 | 2. 認定こども園 | 3. 保育所 |
| 4. 児童福祉施設(保育所以外) | 5. 児童養護施設 | 6. 乳児院 |
| 7. その他() | | |

問2 貴園・貴所の所在地をお答えください。(あてはまる番号を記入)

- | | | | | | | | | |
|-------------------------------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|----------|
| 番号記入欄
<input type="text"/> | 【北海道・東北】 | 1. 北海道 | 2. 青森県 | 3. 岩手県 | 4. 宮城県 | 5. 秋田県 | 6. 山形県 | 7. 福島県 |
| | 【関東】 | 8. 茨城県 | 9. 栃木県 | 10. 群馬県 | 11. 埼玉県 | 12. 千葉県 | 13. 東京都 | 14. 神奈川県 |
| | 【北陸・甲信越】 | 15. 新潟県 | 16. 富山県 | 17. 石川県 | 18. 福井県 | 19. 山梨県 | 20. 長野県 | |
| | 【東海】 | 21. 岐阜県 | 22. 静岡県 | 23. 愛知県 | 24. 三重県 | | | |
| | 【近畿】 | 25. 滋賀県 | 26. 京都府 | 27. 大阪府 | 28. 兵庫県 | 29. 奈良県 | 30. 和歌山県 | |
| | 【中国】 | 31. 鳥取県 | 32. 島根県 | 33. 岡山県 | 34. 広島県 | 35. 山口県 | | |
| | 【四国】 | 36. 徳島県 | 37. 香川県 | 38. 愛媛県 | 39. 高知県 | | | |
| 【九州・沖縄】 | 40. 福岡県 | 41. 佐賀県 | 42. 長崎県 | 43. 熊本県 | 44. 大分県 | 45. 宮崎県 | 46. 鹿児島県 | |
| | | 47. 沖縄県 | | | | | | |

問3 貴園・貴所の現時点における園児・幼児数をお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. ~35人 | 2. 36人~70人 | 3. 71人~105人 |
| 4. 106人~140人 | 5. 141人~175人 | 6. 176人~210人 |
| 7. 211人以上 | | |

問4 貴園・貴所において勤務されている幼稚園教諭・保育士の人数をお答えください。(該当する人数を記入)

- ◆幼稚園教諭 合計 人 (そのうち、4年制大学卒業者は 人)
- ◆保育士 合計 人 (そのうち、4年制大学卒業者は 人)

以下の欄は、認定こども園などの場合において、2つの資格を有し、両業務に従事する人数をお答えください。なお、記載いただく人数は、上の幼稚園教諭・保育士の人数に含めず、外数でお答えください。

- ◆幼稚園教諭+保育士 (保育教諭) 合計 人 (そのうち、4年制大学卒業者は 人)

以下は、「教育学部教育学科(仮称)の概要」をご覧の上でお答えください。

問9 大谷大学が設置構想中の教育学部教育学科(仮称)の幼児教育コース(仮称)を卒業した学生を採用したいと思われませんか。(あてはまるもの1つに○印)

1. 採用したいと思う
2. 採用を検討したいと思う
3. どちらとも言えない
4. 採用したいと思わない

問10 「問9」で「1. 採用したいと思う」「2. 採用を検討したいと思う」とお答えいただいた場合、ご回答ください。現時点で、採用可能と思われる人数は何人ですか。(人数を記入)

人

問11 大谷大学が設置構想中の教育学部教育学科(仮称)に対して、期待される点や要望がありましたらご自由にお書きください。

質問は以上となります。ご協力いただきありがとうございました。

以下は大谷大学が2018年に設置構想中の「教育学部教育学科(仮称)の概要」です。

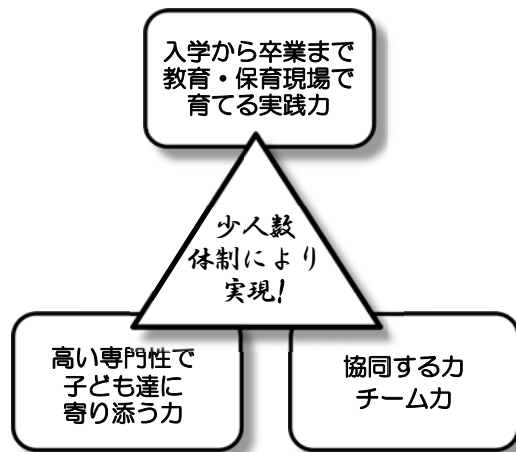
大谷大学 教育学部教育学科 (仮称) **設置構想中**

少人数体制で、確実な実践力を身につけます。

学部学科の概要

開設時期 2018年4月(予定)
 開設場所 京都府京都市北区小山上総町
 修業年限 4年
 入学定員 130人
 (初等教育コース:50人 幼児教育コース:80人)
 取得学位 学士(教育学)
 養成する人材 **初等教育コース** 子どものところに寄り添える教員になることを目標に、授業を行う基礎力とともに、運動会などの特別活動を実践する力も養成します。
幼児教育コース 幼稚園や保育園、認定こども園はもちろん、児童養護施設など、多様な領域で活躍できる保育者を養成します。

～4年間で身につける力～



初等教育コース

取得できる資格 (課程認定申請予定)

小学校教諭一種免許状

卒業後の主な進路

小学校、公務員
教育にたずさわる一般企業

幼児教育コース

取得できる資格 (課程認定申請予定)

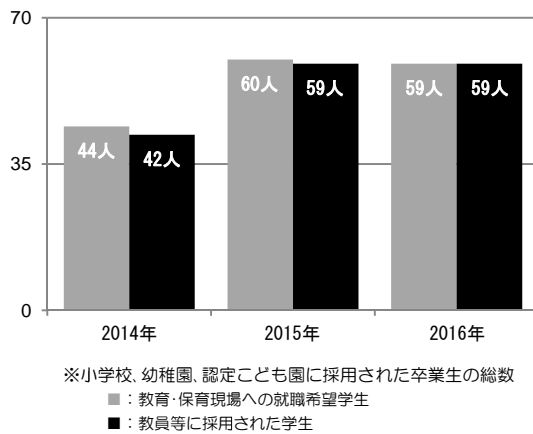
幼稚園教諭一種免許状、保育士
保育心理士(二種)

卒業後の主な進路

幼稚園、保育所、認定こども園
児童養護施設、乳児院、児童福祉施設
公務員、教育にたずさわる一般企業

学部学科の特色 及び 卒業後の進路

小学校・幼稚園・認定こども園など 採用状況
(文学部教育・心理学科卒業生実績)



例年、資格を取得し教育・保育現場への就職を希望した卒業生の9割以上が教育・保育現場で活躍しています。

教員等採用実績
(2016年3月卒業生)

進路	人数
小学校	47人
幼稚園	7人
認定こども園	3人
その他	2人

※講師を含む。
 ※新たに開設される幼児教育コースについては、短期大学の幼稚園教諭・保育士養成の実績(ほぼ100%)をもとに、高い就職率を実現します。

上記は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

京都地区大学 教育学・保育学系学部 入学初年度学費等年間納付額(2017年度)一覧

大学	学部	学科	入学初年度年間納付額			
			入学金	授業料	施設費 教育充実費	総額
大谷大学	教育学部	教育学科	250,000	940,000	100,000	1,290,000
同志社大学	社会学部	教育文化学科	200,000	828,000	149,000	1,177,000
花園大学	社会福祉学部	児童福祉学科	200,000	799,000	200,000	1,199,000
京都橘大学	発達教育学部	児童教育学科	200,000	1,007,000	69,000	1,276,000
京都女子大学	発達教育学部	児童学科	250,000	840,000	220,000	1,310,000
京都女子大学	発達教育学部	教育学科(教育学)	250,000	904,000	162,000	1,316,000
佛教大学(2016年度実績)	教育学部	教育学科、臨床心理学科	170,000	950,000	200,000	1,320,000
立命館大学	産業社会学部	現代社会学科(子ども社会)	300,000	1,038,600		1,338,600
京都華頂大学	現代家政学部	現代家政学科	200,000	940,000	200,000	1,340,000
京都文教大学	臨床心理学部	教育福祉心理学科	180,000	960,000	240,000	1,380,000
同志社女子大学	現代社会学部	現代こども学科	260,000	823,000	300,000	1,383,000
京都光華女子大学	こども教育学部	こども教育学科	250,000	948,000	200,000	1,398,000
平安女学院大学	子ども教育学部	子ども教育学科	250,000	980,000	170,000	1,400,000
京都ノートルダム女子大学	現代人間学部	こども教育学科	280,000	750,000	380,000	1,410,000

*各大学のホームページ等を参照し本学が作成した

オープンキャンパス参加人数推移(2015-2016)

2016年度		
実施日		人数
		総来場者数
2016年	6月 12日(日)	496
	7月 17日(日)	563
	8月 6日(土)	451
	8月 7日(日)	574
	8月 21日(日)	524
	9月 18日(日)	280
	10月 2日(日)☆	72
	12月 11日(日)☆	88
2017年	3月 20日(月・祝)	527
合計		3,575

2015年度		
実施日		人数
		総来場者数
2015年	6月 14日(日)	487
	7月 19日(日)	481
	8月 1日(土)	467
	8月 2日(日)	580
	8月 23日(日)	521
	9月 20日(日)	337
	10月 11日(日)	156
	12月 13日(日)☆	72
2016年	3月 21日(月・祝)	323
合計		3,424

2012年度～2016年度 大谷大学・大谷大学短期大学部 資料請求数一覧

※2012年4月1日～2017年3月31日までの資料請求者数

※資料請求数はこのべ数で算出

	全体							高等学校 3年生(現役)のみ						
	2012	2013	2014	2015	2016	2015と2016の差	2015と2016の比	2012	2013	2014	2015	2016	2015と2016の差	2015と2016の比
全学	29,472	27,727	28,643	29,369	39,376	10,007	134.1%	15,365	14,191	14,227	13,986	16,538	2,552	118.2%
文学部(学科名記載無し)	12,320	12,911	14,789	15,727	20,580	4,853	130.9%	5,825	5,626	6,285	6,867	8,656	1,789	126.1%
文学部 真宗学科	312	322	275	262	284	22	108.4%	182	176	146	143	129	-14	90.2%
文学部 仏教学科	298	270	229	215	232	17	107.9%	173	139	108	109	100	-9	91.7%
文学部 哲学科	400	364	323	297	357	60	120.2%	241	220	161	150	165	15	110.0%
文学部 社会学科	1,474	1,295	1,300	1,678	2,252	574	134.2%	1,029	905	889	965	1,010	45	104.7%
文学部 歴史学科	942	1,058	794	827	1,699	872	205.4%	630	642	537	499	614	115	123.0%
文学部 文学科	2,389	1,374	1,304	1,196	1,800	604	150.5%	1,585	980	937	817	815	-2	99.8%
文学部 国際文化学科	1,317	1,150	1,177	1,447	1,799	352	124.3%	743	660	693	654	648	-6	99.1%
文学部 人文情報学科	616	582	503	608	1,011	403	166.3%	338	363	271	342	264	-78	77.2%
文学部 教育・心理学科	3,902	3,334	3,215	3,436	4,718	1,282	137.3%	2,176	1,969	1,791	1,683	1,835	152	109.0%
無記入	1,999	1,731	1,432	1,133	1,289	156	113.8%	576	849	728	523	588	65	112.4%

文学部 教育・心理学科 就職勤務地別卒業生数

2015年3月卒業生		
京都府	26	32.5%
滋賀県	20	25.0%
大阪府	18	22.5%
東京都	4	5.0%
兵庫県	3	3.8%
福岡県	2	2.5%
神奈川県	1	1.3%
石川県	1	1.3%
岐阜県	1	1.3%
三重県	1	1.3%
広島県	1	1.3%
香川県	1	1.3%
大分県	1	1.3%
小計	80	100.0%

80.0%

2016年3月卒業生		
京都府	43	45.3%
滋賀県	15	15.8%
東京都	13	13.7%
大阪府	9	9.5%
兵庫県	4	4.2%
岐阜県	2	2.1%
北海道	1	1.1%
岩手県	1	1.1%
茨城県	1	1.1%
千葉県	1	1.1%
石川県	1	1.1%
長野県	1	1.1%
香川県	1	1.1%
福岡県	1	1.1%
大分県	1	1.1%
小計	95	100.0%

74.7%

2017.4.17キャリアセンター

大谷大学 文学部 教育・心理学科卒業生の教員就職状況

卒業年度	教諭				常勤講師						非常勤講師				合計
	公立小学校	私立小学校	公立幼稚園	私立幼稚園	公立小学校	私立小学校	公立中学校	公立幼稚園	私立幼稚園	その他	公立小学校	私立小学校	公立幼稚園	私立幼稚園	
2013	5		1	9	18			5		2	2				42
2014	12		2	11	24			1	4		2		3		59
2015	14			6	30	3	1	3	1	1	1				60
2016	13		7		16						2			1	39

* 2016年度は、最終集計が終わっていない暫定値